

水源禅師法話集 17

(2012年9月30日 京都法話会)

2014年9月22日

一乗会



目次

水源禅師法話	1
菩薩とは.....	1
宮澤賢治さんの詩と日本の実践法	2
科学、お金、地位、名誉.....	3
宇宙の大真理の原点.....	4
十二因縁を教える難しさ.....	5
愛すること、一乗、仏牙舍利.....	8
常識、真理、因縁、浄土、宇宙.....	9
質疑応答	20
ニミッタを出すには.....	20
風水と瞑想.....	21
今の日本の現状.....	22
在宅で真理の道を歩む方法.....	26
心心伝印.....	26
アングリマーラと菩薩行.....	28
バーチャルリアリティの恐ろしさ.....	30
因縁の恐ろしさ.....	32
体験なき仏教の恐ろしさ.....	33
現実に生きる大切さ.....	36

水源禪師法話

菩薩とは

「Namo tassa Bhagavato Arahato Samma -Sambuddhassa (ナモ〈礼拝〉タッサ バガヴァト〈世尊〉アラハト〈阿羅漢〉サンマ〈正〉サンブッダサ〈自覚〉) (私は阿羅漢であり正自覚者であるかの世尊を礼拝いたします) ということには深い意味があります。

カトマンズの郊外の離れたところに、6000年前にお釈迦様が第三王子として生まれて、最後の行を果たされたのです。この地上で、菩薩行として。そこのお寺の解説を読むと「今から6500年前に出られた」と。そしてそのとき、その第三のゴータマ菩薩王子様は、お兄さん2人とハイキングに行った。そしてそのときに、母親の虎が5匹の赤ちゃんの虎にお乳をやろうとしているのだけれども、やせ細って、もう赤ちゃんは全部死ぬ、というような状態を見た。ゴータマ菩薩様は、この赤ちゃんを救える人がいるだろうか。そうしたらお兄さんたちがね、いや、この世にそういう人は1人もいないでしょう。ただこの5匹の赤ちゃん虎を救うには、人間の体を切り裂いて捧げることによってしか、この赤ちゃんは生きられないでしょう。それで、虎のために命を捨てるというような人は、そういう勇気のある人は、この世の中に1人もおりません。

そういうことで、3人でお城に帰るときに、ゴータマ菩薩様がふっと「ちょっと忘れ物を取ってくる」と言って、帰って行ってね。それで、虎のお母さんに自分の手を差し出したけれども、食べないのです、力がないから。それで、仕方なしに枝を折って、(自分の手を)切り裂いて血を出したわけです。そうしたら少しずつ舐めてくれたわけ。それで、だんだんそうして食べられていって、元気になって、まあ赤ちゃんに食べさせるお乳が出るでしょ？ただ、お兄さん方はあまりにも遅いので、もう1回、帰ってみたら、まあ、食べられてしまっている、自分たちの一番下の弟が。もうびっくりして宮殿に帰って。お母さんに話したら、まあ、お母さんはもう気がおかしくなったように悲しんで。ところが、その晩に天国からゴータマ菩薩様が「心配しないでください」と。「私は大丈夫です、安心してください」と、そういう夢を見せたわけですね。

それで、お釈迦様が今から2500年前に唱導(しょうどう)して、悟りを開いて、その後、1200人の比丘・比丘尼をね、ブッダガヤのあの、ラジギールからてくてくてくと歩いて、その自分の前世が死んだ場所に行ったわけなのです。それで、6500年前に、あのお母さんがあまりにもかわいそうだということで、骨を拾ってそこに置いてあるわけです。だから、「帰命」(きみょう：頭を下げ敬意を示すこと)、「私はそこに頭を下げます」ということで、「Namo (ナモ)」(南無：帰命)ということが始まっています。という、すべての経典は事実から発生した言葉であるということです。

パーチェカ仏陀(縁覚、辟支仏)と普通の悟りを開いたお釈迦様と、全然変わらないのだけれども、人に教えることができない。ところが、サンマサンブッダサ(正覚仏陀)になれ

ばね、もうあらゆることについて教えることができる。ということは、(サンマサンブツダサは) あらゆる体験をしているわけなのですね。ありとあらゆる苦しみを通して、最後の 500 回は菩薩になって、その叡智でもって救おうとしているわけなのですね。だから、このお経というものには、一つ一つに深い体験が押し込まれています。ただ作り上げたわけではなく、実際に体を捨てて、苦行をして、そういうことをやっているわけなのですね。

私たちは魚を食べていますね。それから豚さんも食べていますね。これは非常に悪いと。たしかに。もし私が食べられてしまったら怖いし。でも、北極ではイヌイットの方は(肉を) 食べなきゃ生きていけないのですよ。北のインディアンはね、肉を食べなければ体を壊すのです。お米とか、それから小麦を食べたら受け付けられないのです。

私が言うのは、魚も菩薩で、私たちに全身で供養をしてくれているのかもしれない。豚さんも、菩薩のかたちをして、私たちに肉を与えてくれているのかもわからない。体が悪くて障がい者になって生まれた方も、実は菩薩であって、その体型でもって、慈悲の心を私たちに起こそうとしてくれているのかもわからない。一切がね、実は菩薩であるかもしれません。

だから、善導大師(中国浄土宗の第二祖)という方が非常に素晴らしく悟りを開いた方で、その方から、法然大師(日本浄土宗の開祖)、それから親鸞大師(浄土真宗の宗祖)ですね。(親鸞) 聖人というけれども。はっきり言って大師様なのですよ、こういう方たちは。ただ、その当時のしきたりに従って、衆生のために袈裟を捨て、衆生を導こうとしたと思います。

宮澤賢治さんの詩と日本の実践法

近年では、印光大師様(1861-1941、中国浄土宗の第十三祖)という方がね、「在家も出家もない」と。いかに、その真理をわきまえて、「人にただただ尽くす」ことだけが唱導であると。だから、「ただただ人の労を取って尽くしなさい」と。結局、これが「日本の実践法」で、こう言っていますね。ちょっと読ませていただきます。

雨にも負けず 風にもまけず
雪にも夏の暑さにもまけぬ
丈夫なからだをもち
慾はなく けして瞋(いか)らず
いつも静かに笑っている
一日に玄米四合と 味噌と少しの野菜を食べ
あらゆることを 自分を感情に入れずに
よく見聞きし分かり そして忘れず
野原の松の林の陰の 小さな藁ぶきの小屋にいて
東に病気の子どもあれば 行って看病してやり
西につかれた母あれば 行ってその稲の束を負い
南に死にそうな人あれば 行ってこわがらなくてもいいといい
北に喧嘩や訴訟があれば つまらないからやめろといい

日照りのときは涙を流し 寒さの夏はおろおろ歩き
みんなに、でくのぼうと呼ばれ
褒められもせず 苦にもされず
そういうものに わたしはなりたい

(宮沢賢治「雨ニモマケズ」)

という…。まあこういう方は悟りを開いているわけです、はっきり言って。

だから結局、「人のために労しろ」というのは、印光大師様はこのことを言っているわけなのです。ただ実践あるのみで。お釈迦様はこう言いました。「階級のきつい社会で、生まれによって、貧富の尊さや、身分が低いなどという階級は決まらない」と。ただそのときに、「この世において何をするかという、一体、人のために何をして生きるかということによって、その人が決定されます」と。

科学、お金、地位、名誉

私が小さいとき、お寺によく連れていかれてね。まあ、お釈迦様とかを見て、なんだか偉くて素晴らしいと。だけれども、だんだんそのうち、神というのがあるのかな、仏というものもあるのかなと。科学はどんどん進歩して、そして、国もどんどん栄え、新幹線はでき、オリンピックは来る。苦勞している人のことも目に入らず、ただただ、我（われ）、我（われ）と、自分だけがよければいいではないかと考えて。「お金」こそが決定であって、「地位」とか「名誉」とか、それだけが人生をはかるものであって、「貧しく生きて細々」と、というのは今で言う「負け組」だというような、そういう風潮に押されたけど、はて、これでいいのかなと。ちょっとこれはおかしいと。

ということで、その科学で幸せにできるのではないかと。そういうふうな科学の道とか、あの理数の方ですね。それから天文とか、宗教のことは（私は）あまり勉強しなかったんです、小さいときから。ただし、私が三つのときに臨死体験をして、死ぬ身であったわけなのです。それで、不思議な体験をして、この世の次元を超えた空間からこの世を見ていたし、そういうことがあるから、(宗教的なものは)完全に否定されない、という心がいつもあって、ただし世の中は今マスメディアでもそうだけれども、「一生懸命お金を儲けることがいいことだ」と。ね、「何か功績を通して、オリンピックでゴールドを取るのがいいことだ」と。もう、朝から晩まで宣伝して、そういうふうに向かわないものは、もう「負け組」「ダメな者」というふうな風潮で、私たちの小さいときから四六時中やっていました。

ところが、本当にそれでいいのだろうか？と。強い者はますます恩恵を受けて、弱い者は片隅にやられる、ということを目にして、どうしても私は、宮沢賢治さんのこの詩に深く印象づけられて。やっぱりそういうふうな起業家とか、会社を起こしてとか、政治闘争をしてというふうな生き方には入れなかったですね。「ただただ、人をいかに幸せにするか」ということを考えて、それには科学の力が一番よいのではないかと。(そのころは)まあ原子力発電もよいのではないかと。そういう頃の文献はよいことづくしで。今になって、また北米の方の文献を調べてみたら、とんでもないことが隠されていたのです。

まあ、ただただそういう権力にのって、いやがおうでも邁進しなければいけないという地獄にいる方々を、実は哀れに思っています。平安なときが一瞬としてないと思いますよ。なぜかといったら、私が仏に帰依する前、一切、科学とかね。そういう経済、力。そういう精神的なものはない、とおかしいのではないかと。いくらやったって救われないし。キリスト教の神。神があったのなら、どうして（私たちは）こんなに戦争を起こして、いつまでも戦うのか。ということだったけど、うちの母が仏さまに帰依して、母に見習って、母に見習って「私も心から帰依します」と言ったら、その瞬間から心の地獄のような、炎がずっと消えました。

それまではなんか、頭では正しいと思っても、もう心は地獄の火の中にいるときもありました。それが、その地獄の火がずっと消えてしまいました。

宇宙の大真理の原点

それから平安という世界を知って、そしてやっぱりその中でも、一体、お釈迦様の教えは何なのか、キリスト教の教えは何なのか、イスラム教の神というものは何なのか、というさすらいですね。心。そういうシャーマニックな神、救い。それで、ずーっと放浪をして世界の人々と話しているうちに、「人を愛する」という、「人を救いたい」という「慈悲」がどの宗教にもあるわけなのですね。ただそれが、どういうふう実践されているか、されていないか。それで、どんなにその科学とか、その知識があっても、そこに「愛がなければ、それは本当の智慧ではない」。「愛というのは即、智慧である」と。だから、この前も言ったように、結局、私たちはお母さんを愛し、お母さんは子どもを一生懸命愛し、お父さんはそれを守ろうとする。そういうことが、この「宇宙の大真理の原点」。

そうであっても、私が若い頃、18歳のときはもう、全世界の知識はすべて分かっていると。分からないものは何もないと。本を読めばわかるじゃないか、書いてあるじゃないかと（笑）。それが、やっぱり40歳くらいになって、おかしい、実は私はなんにも知らないのだと。たとえ本を丸暗記しても、それは知ったことではないと。全く体験をはずした知識だから。やっぱり手を30年間動かして、実際の物質を触って、初めて微妙な絶妙な世界が現れてきます。それは本には書かれない。本当の知識というのは、そういうふう現実としてもあります。だから一番よい例が、その昔、テレビのプラズマスクリーンを作った方がね、女工さんで。その人は、100分の1ミリの差が指で触って、その差が分かるのです。機械では分からない。その技術があって、それで初めて成功したと。というふうに、「体験」がいかに機械化されるかではなく、「体験」を通して真理を知るなんですね。

だから、私が幼馴染の友人のお医者さんに「お前の弟子にどうしてお前の知識を教えるのだ？この部屋いっぱい書物などがあっても教えられないだろう？」と。「そうなのだよ」と言っていました。だから結局、「Namo tassa (ナモ タッサ)」という無量の時間帯を通して、宇宙の叡智が私たちに入ってきているわけなのですね。それがなかなか伝わらない。というのは、体験を通してしか分からないから。頭の知識だけでは、機械化されたコンピュータと競争しているだけの、つまらないことではないですか？ それより大宇宙の叡智を、大空を、

体得した方が、この世のどんな栄華より素晴らしい体験と思います。

十二因縁を教える難しさ

ここにある『十二因縁経』とかね、鳩摩羅什の書いた解説があります。「十二因縁」というのは、(このような勉強や実践をしている人なら)もう口が酸っぱくなるほど、よく言われるので、皆さん聞かれたこともあるかと思います。なんだか私も訳の分からない、頭の痛いことを(言いますが)。「saḷāyatanam」が「六処」で、「愛(渴愛)」とか何とかして、「jāti」(生)、「jarāmaṇam」(老死)で死んでいくとか。その十二の行程で「生まれて死ぬ」「生まれて死ぬ」を書いているわけなのです。実はここが、お釈迦様が「百千万劫難遭遇 我今見聞得受持 願解如来真实義」(無上甚深微妙の法は、百千万劫にも遭い遇うこと難し。我れ今見聞し受持することを得たり)の「得受」(とくじゅ)のところがここに当たるわけなのです。無量の時間帯を流れ流れて。だからこう言っていますね。

Aneka jāti saṃsāram

アネーカ ジャーティ サンサーラン

(『ダンマパダ』153)

というのは、もう結局、「saṃsāram」、輪廻を、もう無量の時間を通して、通してきたということを、お釈迦様が結局、悟りを開いて言い始めたわけなのです。そして、

sandhāvissam anibbisam

サンダーヴィッサン アニッピサン

(同)

どうしてこういうふうには、生まれ死に、生まれ死にしていたか、ということ、私は、はっきりと見極めた。

Gahakārakaṃ gavesanto dukkhā jāti punappunam

ガハカーラカン ガヴェーサントー ドウッカー ジャーティ プナップナン (同)

「一切の苦をこれから逃れる法を見ました」と、悟りを開いたときに言ったわけなのです。でも、あまりの難しさに「このまま涅槃に行こう」と思った。「教えられない」と。それが結局、「十二因縁」のことなのです。非常に難しいのです、中を見極めていくというのは。なぜかといいますと…

Avijjā paccayā saṅkhārā

アヴィッジャー パッチャヤー サンカーラー

(同)

「アヴィッジャー パッチャヤー サンカーラー」(縁起法)と。つまり、「無明」というのだけれども、この「無明」、これが結局「正しいことでも悪い」「悪いことがもしかしたら

正しいかもわからない」。

たとえばですね、50年前、女性がズボンをはいて歩いたら、ちょっと野蛮。ちょっとスカートが短く、裾を出したら、なんか色気が付いたとか。今はね、ミニスカートをはいて、ビキニで銀座を歩いたりなんかしたら、「なかなかよい、セクシーだ」というふうに、コロリと（常識が）変わるわけ。そういうふうに、私たちは無明、アヴィツジャー。「アヴィツジャー パッチャヤー サンカーラー…」。サンカーラというのが行深（ぎょうじん）、（『般若心経』の）「観自在菩薩行深」という部分の「行深」の「行」＝サンカーラ（形成作用）なのです。

心がね、善いことをしても悪いことをしても、心がね、善いことをすれば三十四善心がダーッと出てきます。それがちょっと寝ぼけたり怠けたりしたら十八不善心がダーッと出て。お金を儲けよう儲けようと考えた場合には二十一不善心とか、怒りとか、全部そうやって、それをアクサラ（不善）と言います。クサラ（善）は三十四善心。これがどんどんどんどん進化して行って、ジャーナ（禅定）に入り、自分の心の動きがパッと観え始めるわけなのです。私が2500年間こういうふうに保たれていた行を目の当たりに体験したということ自体、奇跡的だったけれども、これを果たして人にどう伝えようかと思ったときには、もう諦めしかなかった。余りにも難しい行であるから。つまり、過去世を観るわけなのです。過去を観て、それを分析していかないといけない。それで初めて因縁の力が分かります。

正式な方法では、そこに到達するのに普通は10年、早くても3年かかるから。それも朝から晩まで座り続けて。つまり、サマタ（止）、サマーディ（三昧）の力が相当なければ、到達できないのです。その「四界分別」と言ってね。「地、水、風、火（ち、すい、ふう、か）」をしっかり観なきゃいけない。それで、それが体の色（しき）＝ルーパになって、これを構成しているわけです。その後、ナーマという名（みょう）、チッタ、心、がそれにくっついて、ダーッと出ていくわけ。コンピュータのハードウェアみたいにね、7回、ダダダ、ダダダダと刻まれていく、それも全部観なきゃいけない。なぜ観なきゃいけないかと言ったら、シャーリプトラ（舎利弗）の第五法で過去を観るときは、ザーッと映像みたいに観えます。タタタタッと。それが本当かどうかということをお釈迦様の第一法によってナーマ・ルーパ（心と体）をつながなきゃいけない。過去の物質と現在の物質をつないでいかなくちゃいけない。それが全部きれいに繋がったときに「矛盾なく観た」となるわけなのです。二つの方法で観ているわけなのです。だから大変なことなのです。

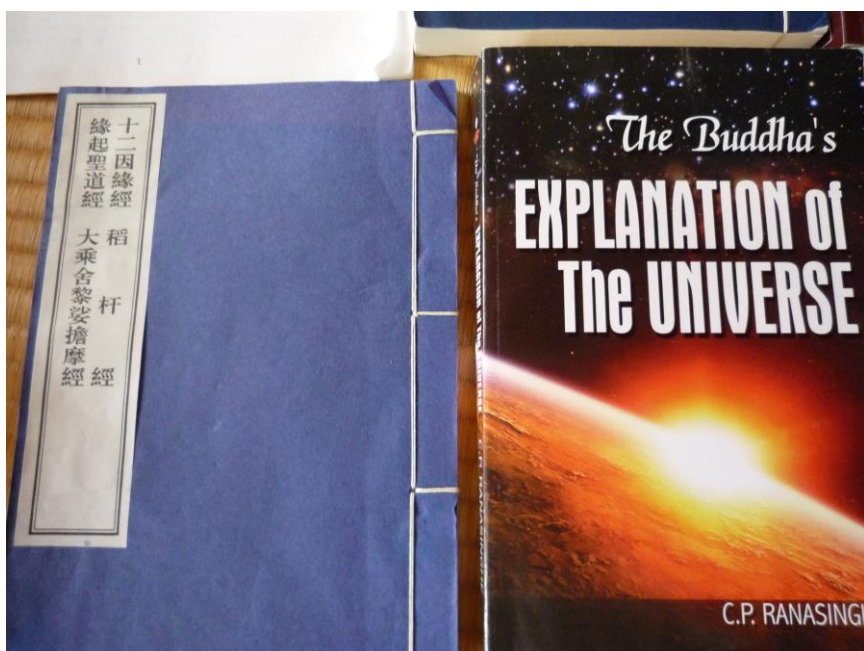
それから、未来も観なきゃいけない。時空というのはないわけ。私たちの考えでは、こっちから見たら過去、あっちから見たら未来。実に実に、その深いのですよ。 $\infty + \infty$ （無限＋無限）は無限なのですね。 $\infty - \infty$ （無限－無限）も無限。 $\infty \times \infty$ （無限×無限）もまた無限。 $\infty \div \infty$ （無限÷無限）もまた無限。この無限ということに、1930年代にただ1人、インドの天才的な数学者が、ある程度、道を付けたわけなのです。なぜかと言ったら、彼はブラーフマナのファミリーだから。そういうふうな宗教的なバックグラウンドがあるから。

なぜこれが大切かと言ったら、お経の經典で最も大切なところは、お釈迦様がこう言ったのです。私たちの過去の無限から今現在に至りますと。現在からまた無限に行きますと。今、私たちのいる時空は無限の間の谷間、この瞬間です。その瞬間はどれくらいのものかと。それは稲妻があるでしょうと。稲妻のときにどれくらいのバイブレーションがしますとか。

それは1兆のバイブレーションを起こすのですね、体が。ババババーッと。稲妻は0.32秒。

結局、その時代はそういう、(稲妻を計るような)器具がないから。お釈迦様はそこまで観えるわけなのです。そういうこともお経にきれいに書いてある。それで、現在、私の生きているこの時空は10ナノメートル(10億分の1メートル)しかないわけです。時間帯は30のアト(100京分の1)。非常に短い時空で、私たちはこう生きているのだけれども、実際、私たちは存在していないけど、存在しているわけ。それくらい速いスピードで私たちは動いているわけなのだけれども、それは今、あの前はね、Higgs boson(ヒッグス粒子)というパーティクル(粒子)があるかないかということで、お預けにしたけれども、今それがどうも「99.99パーセントある」になったら、この宇宙には無限の宇宙があると。ないわけがないということになった。

アインシュタインはなぜ言わなかったか。彼はわざとそこを避けて通った。空(くう)の時空に入っていきますから。彼は知っているわけなのです。空という存在。なぜかといったら、私がカナダで瞑想を教えている人がね、今、ペンシルベニア大学の数学科の教授になりましたけれども、2年前に「無限のことを研究しているのです」と。(私は)「それ(無限の研究)をやりなさい、素晴らしいことです」と。それで、私が来る前に「先生できました、私の論文『無限について』」。この人だけなのですよ、世界で。数学界、歴史始まって以来。結局、お釈迦様もその点を付いているわけ。でもね、こういうことを論理的に言ったって、ホワーンとしてわからないでしょう？



水源禅師が将来された『十二因縁経』などの経典

愛すること、一乗、仏牙舍利

だからね、1番良いのは、さっき言った「人をいかに愛して、愛ということをしっかり分かってください、それはありとあらゆるところにあります」と。子供ができれば、いかにその愛を深めていくか、兄弟があれば、喧嘩しながらでも、いかにそれを修正していくかと。これは叡智の中の無量の叡智を得られるわけなのですね。だから、観音様の叡智は大海のごとくで、阿弥陀様を乗せているわけなのです。

だから、阿弥陀の世界なんてあるのかな、いやあって欲しい、信じているからあるだろうと。それで、行を終えて宇宙を探したけれど、観えない。それはびっくりしました。ところが、疑似浄土（方便化土）というものは観えた。なんか、あの浄土（真実報土）のようだけれども、浄土じゃないと。それで、がっかりして、ずっと苦悶していたら、あるとき観音様が降りてきて、ずっと観せてくれたんです。それで確信を得た。

印光大師の浄土禅。つまり、これは善導大師からずっとつながった本家本元の『阿弥陀経』。その元はと言えば、龍樹菩薩というナーランダ大学の学長を600年、務めた方ですと。達磨大師は120歳で、広東（Guangdong）に入ってきてね、サイゴン（今のベトナムのホーチミン）を通過して、150歳でパミール高原を通過して帰っていったらしい。そういうことがあるだろうかと。今ミャンマーには1048歳のお坊さんがいる。だから、ノアの箱船の「ノアが1000歳以上、生きた」と書いてあるというのも当然だし、迦葉尊者（摩訶迦葉尊者）は今でもヒマラヤにいらっしゃるだろうと、私は当然そういう気がしますし。それを訪ねて歩いたわけなのです、ヒマラヤを回って、ずっとどこにいるかと。会えなかったけど、迦葉尊者の足跡がマナサローヴァ（Manasarovar, カイラス山・チベット）という湖（この水で洗礼すれば天国に生まれるヒンドゥー教の聖地）の洞窟のお寺の中に迦葉尊者の足跡があって、和尚さんが（普段）開けないのに私のために開けて見せてくれた。これが迦葉尊者の足跡。まあそこで頭を付けて帰って来たのだけれども。結局、チベット仏教は1000年前とかいっているけれども、2500年前にその足跡があるんですね、その迦葉尊者の。お釈迦様はその湖のところで3カ月座って、天界にアビダンマを講義した聖地です。

だから、私が言うのは「大乘もテーラワーダ（南伝）もチベット仏教も、実は同じものである」と。実は、さっき言った「十二因縁」が根幹であって、そして今回、奇しくも、この地上にある四つのお釈迦様の、あの最も大事な舍利（仏牙舍利）があるところにお参りできました。仏牙舍利はこの地上に四つあるのです。実は、地球の地上に二つしかなかったけれども、一つは天界、一つはナーガ（龍神）の国にあって。2000年前にナーガ（龍神）からスリランカの女王様に送られて、そのストゥーパ（仏舎利を納骨する円すい形の仏塔）がソマバッティ（Somawathi）というところにあります。そこでは今でも象がね、朝に夕にお経を聞きにきます。もう一つはスリランカのキャンディ（Kandy）という、地上に（もともと）あった仏牙舍利はシンハリという王国がインドにあったときに、それが王子様と王女様が持って、そこに持ってきている。もう一つはアフガニスタンの王様が持っていたのをチベットのお寺で1000年前に守って、今、佛光山というところに納めて巨大な塔を造りました。最後のもの

は天界にあると。それが1000年前にね。あの三蔵法師が分かりませんが、天竺（インド）からそのお経を持ってくるといふときに受け取ったと。それが靈光寺（北京）というところにある。それで、そこを回って帰ってくるときに、なんと『達摩多羅禪經』というのが手に入りました。

それを読んで見たら、南方禪と北方禪と同じことをやっているわけですね。アナパナ（入出息念）、ニミッタ（丹光、禪相）も書いています。カシナ（十遍）の瞑想も書いています。止観も書いています。ただ、私たちは最後の六祖大師の空を観ることばかりを教えられて、「禪は独立したものである」といふ。とんでもない！ 全く同一のもの。だから、私が南方に行って（行を）やったときに、すつとできたというのは当然できるわけ。だから、南方のお坊さんが、本当にやったら、空の世界、当然、観えなきゃいけない。

だから、今回も台湾にあるパオ・セヤドーのパオ森林僧院の分寺に招待されて、「行けますか？」と。「いや、私は忙しいので行けません」と。この人はミャンマーのダンマチャリヤ（Dhammacariya）で、もう行も全部、完成している。そのときに空（くう）の討論に入ったときに彼はびっくりしてしまった。やっぱりミャンマーでも空の世界を観なきゃダメです、最低限。そこからソータパン（預流果）に行くから。それで、空の討論になったときにショックを受けて。「あなたの先生は誰ですか？」と。「会いたい、教えを乞いたい」と。それは当然。なぜかといったら『達摩多羅禪經』、それから『清浄道論』のブッダゴーサ。同体なのです、教えは。それで彼がはっきり分かったのは「禪がそこまで進化している」といふこと。

常識、真理、因縁、浄土、宇宙

さっき言ったように、50年前は女性が少しスカートをはいたらあれだったのだけれども、今はミニスカートで歩けば、「わあ、素晴らしい脚だ」と。「何て素晴らしいのでしょうか」と。これが世間の常識だから、まどわされず。私が間違っ、若い頃にね、「実業家になろう」「起業家になろう」といふ、金儲けに朝から晩までとなった場合には、今は強烈に激しい生活の様子でしょう。「なんで（今）こうなったか」と観たら、過去の因縁によって今、私がこうして存在して、こういうふうには道を学べるわけなのです。だから、今こうしてただ坐れる。ゆっくり坐ってくださいよ、もう無理しないで。「学べる」といふことは、あなたがたも過去にね、絶対に仏道の縁があつて、ただ今（ここに）来ているわけではない。

そう簡単に仏の教えは、手に入らないです。だから、バチカンの素晴らしい若いお坊さんが私にね、討論するのですよ、私にね。「仏教とは何か」とか、若いときに。それで、彼らは感激するわけなのですよ。「あー！ そうかそうか」とか。それで、私はバチカンのことを聞いただけだけれども、結局AD 325年に、カソリズムの経典で「前世もない、来世もない」と。「あるのは神から作られて、地獄か天国しかない」と（笑）。それで、40年ぐらい前にダライ・ラマさんが来たときに、いや、彼は14代目だと。奇しくも私はそのお手伝いをして、トロントの西本願寺（浄土真宗トロント本願寺）で。そのときの藤田さんという方にお話ししたら、快く「お寺を使ってください」と。それでまた、この本願寺派のこのお寺で、お話しできるという。

だから、(すべての巡り合わせが) 絶妙なのですね。絶妙に次ぐ絶妙の。蜘蛛の糸のように切れそうに細いけど切れない。真面目にやっっていけば、ちゃんとたどり着く。ただその阿弥陀様の国があるから、これで安心。「私はこの世で何をしてもいいし、人には私の代わりに阿弥陀様の国に生まれるようにと拜んでもらおう」と。「そして私は死んだら阿弥陀の国に往(い)こう」と。それは往けないです(笑)。本人がやらなきゃだめ。阿弥陀様でも連れては往けません。本人が一生懸命、山に登って、門をたたいてくれなきゃ。ところが、「一生懸命、死んだあとで拜んでもらえば、阿弥陀の国に往ける」と。これは無理であり得ないことです。

というのは心がね、重いのですよ、そういうふうに浄化していない場合は。すーっと上がれないのです。上がれないということは、天界というものすごく、こうソフトでもうシルクのような物質になっているのですね。こっちの物質、ルーパ、色(しき)は荒いんですよ、ざらざらと。霊界(餓鬼界)の物質はもっと荒い、ざらっと。重いわけ。だから往けない、物理的に見ても。そういう事を「体験して」初めて分かります。それを一般の人に分かるように一生懸命、細かく解説するのだけれども、観ていないと頭が痛くなりますね。(そういう本などを)読んでいたら。そういうことで、ますますこの仏教離れが起こるかもしれません。

でも、仏教というのは実に簡単で、さっき言った印光大師様が「心から帰依して、南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏」と。一心に、心をそこに向けてね、人のために労を取って。つまり菩薩行ですね。菩薩行で人の命を殺めるわけない。人が苦しんでも関係ないという、そういうことは菩薩行ではできないです。菩薩行というのは「愛をいかに深く深めていくか」という。だから、観音様が阿弥陀様を乗せているでしょう。ただそれだけで「心を大きくしていけばいい」。宮沢賢治さんの「南に死にそうな人があれば 行ってこわがらなくてもいいといい」とね、いいところに行くからと。なぜなら、「あなたは一生、苦勞して今死にそうだけれども、何も悪いことはしていないじゃない、かならず善いところに行きますよ」と言うわけ。ところが、人を殺めて、盗んで、好き放題やったら、宮沢賢治は「怖がらなくてもいいよ」とは言わないはず(笑)。

ま、そういうふうに、仏の教えは広大無限で、ありとあらゆる方法でもって人を救おうという、慈悲そのもの。それは愛そのものと言っていい。深いです。だから、まあそれに触れたら、まああんまり世の中のことは、だんだん気にしなくなってしまうですね。私はお釈迦様みたいに力はないけれど、ただおすがりして、私のできる事があれば、あのニミッタ(丹光、禪相)の出し方は、こうした方が出やすいですとか。それで、この本はとてもよく書かれているから正解ですと。この本はちょっと分からないことが書いていますねと。そういう相談、体験上での報告はできて、それで結局、私もいくら読んでもわからないし、(ある)お経を読めば、このお経を読めば必ず悟りを開いて大歓喜が起きるというから一生懸命、読んだけど、挙句の果てに悟りは開かないし。それでまあ、黙々と私の先生の指南で、こう、ただ坐っていくうちに、こういうふうな因縁がうまくいってね。すべては因縁がうまく、うまくいって、こういうふうに、こういうお経も手に入ったりします。

そして、因縁のおかげで、四つのうちの最後の仏牙舍利をお参りしたときに、『達摩多羅禪經』というのが手に入って。その存在すら知らなかったけど、中を紐といてみたら、ブッダゴースと同じことをやっているわけなのです。だから、「禪は禪」とかね、「南方仏教は南方

仏教」と言う人は、やっぱり私もそうだったけれど、知らないから、そう言っているだけで。だから、私の体験では南伝も北伝も一緒だと、私が何回も言っていましたけど、経典自体が出てきたわけです。だから、正しいことをやれば、そういうふうにならばいつでも天は応援してくれるし、そういうものを見せてくれるわけなのです。お釈迦様の言っている無限のことも、2500年後の今でも通用するわけなのです。

他の宗教では「前世もない、来世もない」と言っているものだから、どうも違うみたいだと。私の過去の体験もしてしまうしね。予言という、未来も観えると。時空の時間があやふやになって、そういうふうにならば一切が、神が決めているものじゃないのだと。なぜかといったら、生まれて来てすぐに癌だ、死ななきゃいけないと。ある人は、もう一生、快樂に次ぐ快樂を受けて、王子様の宮殿の中でゆっくりと死んでいくと。なぜ神がいるならば、どうしてこういう状態をつくるのか。スーダンでは子どもが親を殺さなきゃいけない。パキスタンでは空中から爆撃されて、寝ているところをボコボコと死んでいかなければならない。もし神があるとすれば、ちょっとひどいじゃないかと。ということに回答できないのです。かといって「来世がある、それから過去もある」となったらね。今まで悪いことしてきた人は心から悔い改めればよいのに、それができないのでいやいやいやいや、神だけ信じれば天国に行く、と言わざるを得ないわけ。なぜなら、それ以上の償いをしなければいけないからです。

プロテスタントのマルティン・ルター (Martin Luther) がね、その当時、あの大金持ちは免罪符を買えば、罪を許され天国に行く。「そんな馬鹿なことはないでしょう！」と。「貧しい人は一生懸命、働いてもしようがないのですか」と。「金がないために免罪符をもらえない。じゃあ地獄なのですか？」と。ということをやっていたわけなのです。ガリレオ・ガリレイはもう400年前に殺されそうになったけれども、2001年に「許しましょう」と。でも謝らない。「許しましょう」なんですよ。「私たちは間違っていました」じゃない。「許しましょう」と。絶大な力ですよ、そのカソリズムの。ヨーロッパの方は。

何ていうのですかね。エックス・コミュニケーション (ex-communication: 破門) と言ったらね、仲間はずれ。だから、ある王様がね、バチカンの言うことを聞かなかったから、バチカンがエックス・コミュニケーションしたら、もう全部、誰もお話ししてくれない。独り、王様であるがゆえに。そして、この王様は、そのポープ (法王) のいる教会の宮殿の前で、裸になって、それで自分で鞭を打って、懺悔するわけです。そうしたらポープが「よしよし、お前は懺悔した」と許してあげて。それほど強烈なもの、完全に。まあ、こうなったらポリティカル・レリジョン (political religion: 政治の宗教) なわけです。

お釈迦様は「それはしっちゃいけない」と。「真理はあなたがたひとりで体験してくださいよ」と。ところがね、私たちは、私もそうだけれども、宝くじ買って「あー、何億当たるだろうか」とか。「当たればいいな」と。労働しないでね、一生懸命、働くよりも、まあそういうことがあるわけなのです。でも、そういう真理 (法) を、いくらお金を積んでも、真理はもらえません。名誉があってもそういう真理はもらえません。だから、前回の合宿で体験をした人に、「あなた今の体験を1兆円出すから、それを手放すか」と (聞いたら)、「いや手放さない、この体験の方がいいです」と。なぜかという、次の人生が来ますからね。1兆円も紙

クズのように価値のないものです。来世には持っていきません…。何の意味もないわけです、来世では。だからこういう方々は非常にラッキー。今回も、もうほとんど半分以上の人が、ニミッタという仏光の光を観て。「いや、こういう体験がある」ということ。

それも何も難しいことじゃないから。それで、この力を持って、一人だけ過去世をダーッと観せることができた。カナダでも一人、観せられた。なぜかといったら、南方のブッダゴーサの正式な方法では5年かかるか、10年かかるか。へこたれて観えないでしょう？だからあるところをすっと取って、すっと観せる。それで確信してしまう。後はポチポチと、穴を埋めていけばいいから。空の世界にしる、その物質の世界にしる。

通度寺（つうどじ）というのが、韓国の2000年の歴史のある、すごいお寺なのです。ここで、若いお坊さんが一生懸命、努力していて、このお経のこと、体験することを話したら「本当にできるのか？」と。「その行を私はしている」、「教えてくれ、それを体験する方法を」と。お坊さんになった限りはね、もうここが究極の中核の中核だから。だから、命を懸けても体験したいと思いますよ。体験できなくても、その道を進みたいと。だから、韓国のお坊さんはもうミャンマーにたくさんいて、何とか体験しようとしている。

ところが、私の体験では頑張っても、それはできない。心を緩やかに静かにして、ちょうどバランスが取れればうまくいく。と、その手法を日本でやったから、合宿でころころ、ころころと（観える人が）出てきた。韓国でもその手法で瞑想させました。ところが、私たちはね。「一生懸命、死ぬ気でがんばって必ずできる！」と。それは逆にできなくなる。糸がプツーンと切れるように。だから結局、バランスよく、バランスよく。平穩に、静寂に。

一昨年より、浄土禅を紹介したら、やっぱりすごい結果を出していますね。たった10分でもいい、10分。「ああそれ、阿弥陀ですね、阿弥陀の国をあなた観ましたね」と。情景が観えるのですね、それが阿弥陀の国。この人は本を読んでいたわけじゃない。情景を言ったときに、経典には書いていないけど、私に報告したときに、それは阿弥陀の国、すぐに私は分かります。私も同じことを体験しているから。だから、安心して、まあ浄土の教えをするのもとてもよいです。やっぱりそういう素晴らしい仏国土があるしね、今度、生まれるときに。阿弥陀の国に往くのは簡単。ただ死ぬときに7回、「南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏」と称えたら往くわけだけれども、そのときに、因縁の力が働いてきて、その因縁の力というのは富士山の山よりも重いものがドーッと押し掛かってくるから、(物を)言うこともできない。だから往けない。

ただ、修業していたら、それを通過して、往けるわけなのです。因縁というのは「個人の因縁」「大地の因縁」「国の因縁」「天界の因縁」。五つの因縁があって、私たち個人はたった一つの因縁しかないのですから。因縁と言えば、「自由自在に何でも、自由に」と、そうではない。だから、そういうことで、普段から「諸悪莫作 衆善奉行」（諸々〈もろもろ〉の悪を作〈な〉すこと莫〈なか〉れ、衆〈もろもろ〉の善を奉行し）をすればよいことで、非常に簡単なこと、をただただ続けて静かに自分を見つめていくと。そのうちに、条件が合えば、今度は本当にもっと深く勉強できるか、勉強できなくてもね。心さえちゃんと結実した場合にはニッバーナ（涅槃）に行ってしまうのです。

あるとき、お釈迦様の時代にみんな瞑想しているときには音を立てちゃいけなかった。そして、ちょっと遅れてゆっくり行ったお坊さんがいた。それで、行ったときに一人だったから、虎が出てきて食べられちゃった。でも、このお坊さんは声を出して皆の修行の邪魔をしちゃいけないと、静かにしていたわけ。それで、あまり遅いから他のお坊さんが来てみたら、もう半分以上食べられているわけ。

そのときに、もうニッバーナに行く顔というのは分かりますからね、平穏で素晴らしい顔をして。「ああ、ニッバーナに行くのだな」という（もう分かるわけです）、力を発してしまっていて。だからね、生き延びて苦しんで人生をやり直すより、この人は成功しちゃったわけ。虎さんはこの人を助けちゃったわけ、涅槃に行く。涅槃、なかなか難しい。悪い虎であるけれども、実は善いことをしたと。というふうにね、私たちはこれが悪い、あれは善い、というね。本当にそうなのか？ ちょっと分からない。というふうに「一心に人のために労を取りなさい」と。印光大師様がね、開示しているわけで。「諸悪莫作衆善奉行をしてください」と、そう言われている。「禅即浄土、浄土即禅」という体験をしたから、私が伝えられて、現象を起こしてしまって、本当に観ているわけ。

本当にそれは浄土です。（その浄土を観たと言う方の）言うことすべてが、ピタッと私の見たことに合っていて。浄土に往けばね、まず孔雀が出て来るのですよ。だから、どこのお寺でも孔雀があるわけ、その浄土のお寺には。本殿でも分からずにただ書いているのですけれども、観た人がいるから、孔雀を書いている。だから、阿弥陀はすべて鳥、あら不思議、という經典があります。鳥がすべて阿弥陀、あら不思議、という經典が（笑）。観たわけ、この人は。それで、情景を話してくれるわけです。まさにそれは阿弥陀の国。

私がね、カラン、カランと鈴を鳴らしながら、マントラを唱えてね、その後で瞑想をさせて絵を書かせるのですよ、心で何を観たか、そのとき観た情景を画くように言って。私はこれをカナダでやっているから。同じことを観ているわけです。だから、「あ、あなたは阿弥陀様を見て、もう浄土に生まれてくる決定です」と。たった10分間。というのは、普段からもう信仰してそういうふうにやっているから。その親鸞大師様という私には聖人という大師様。その親鸞大師様は「億千万人いれば、1人くらいしか（浄土に）往かない」と言う。だから何をやっても一緒なのです（笑）。ただ因縁によって、印光大師の手法にちょっと触れただけで、すぐ素晴らしい体験をしてしまいます。

もう阿弥陀の国に往けば、涅槃決定だからね。というふうに阿弥陀様は五劫（ごこう）の間ジャーナ（禅定）に入って、仏国土をつくったと。心がずっとそのジャーナに入ったらね、食べなくてもいいのですよ、本当に。お腹は空かないです。心がエネルギー物質を作りますよ。チッターパって言ってね。心の物質。これはね、私たちが食べるでしょう。あれとおんなじエネルギーを發します。だから、達磨大師が9年間じっと坐って食べなくてもよかったのですよ。この前、ルンビニ・ボーイと言って、6年間、坐って食べない。チッタ（心）のあれを出しているから食べなかったの。心というものはすごいもので。だってこの小さいルーパ（色：変化する物質）に全宇宙がプッと全部入ってしまうから（笑）。五次元の世界。それを『維摩経』の無量阿僧祇劫（むりょうあそうぎこう）の法門（不可思議解脱の法門）という中にちらっと書いてある。それが実態として、今の物理学ではどうもそうであろうと

ということになり始めて。これを物理学で説明したら、今の世界ではなかなか分からないしね。ただそれが仏教経典として書かれている、という奇跡ですね。現代の物理学がこのピタリと合うし、それで「一塵に十方世界あり」というのがそのこと。塵（じん）というのはルーパのこと。ちっちゃい塵じゃなく…まあ塵と考えた方が私たちにとっては楽だけどね。私も、塵に十方世界とはなんだろう、そうなのかなと。

それでやっぱり体験したら、結局、ルーパというのはクォーク (quark) みたいです。原子核あるでしょう？ あれは「108のクォークによって成り立っている」と聞いている、もっとあるかもしれない。それも「一瞬にして、現れては消える」と。そのクォーク一つの中に入っているわけ、全宇宙が。ということも観えてしまう。今はそう言ってもいいわけ。数学的にどうもそれらしい（となっているから）。これが2、30年前に誰かがこのことを言ったら、その人はとても頭がおかしくなったと思われるでしょう。

6年前に「この宇宙だけではなくて、無量の宇宙がありますよ」と観たとおり報告したら、「今はどうもそのようです」と。実際に研究したらどうも、それらしいということで。それを10年前に言ったら、また「とてもおかしな人、何を言っている」というふうにな。宗教には先が観える力があるわけ。予言もできるわけ。ところが、お釈迦様は「そういう予言はやめなさい。ただただ心を向上させるようにしなさい」と。国が潰れようが、地球が破壊されようが、必ずすぐ転生してしまうから。そのときに「いかにあなた方が真理を持ってこの世を去るか」と。ただそれだけ。

お金はいくら持っていてもち出せない(笑)。どんなお坊様を崇めたって全く無用の長物。何の意味もない。「どんなに地位が上がって一旗あげて、もう素晴らしく天才な学者でも」と言っただけ、それには意味がない。数年すれば忘れ去られるし、本人が他のところにいたら、そりゃあ体験上、例えばその世界が仏国土であれば素晴らしいけれども。もしそこに生まれていなかったら、いつの世で仏に出遇えるのでしょうかと。

北のある、40代の女性がね、あのインディアンの聖地で私が出会って。本当に帰ろうとしていたら突然、「やっぱり一緒に行きます」と、山に上がってきて。今にも倒れそう。それで、私に質問するわけなのです。「こういう卍 (マンジ) は何ですか？」、「それは仏陀のサインですよ」と言ったら、涙をほろほろほろと流して。何かの因縁で見えて、それを彫刻として彫っているわけ。前世で見たら、多分関係があると思うのだけれども。そういう(場所では)文献もないし、ただただ真理を求めて私に会って。「それは仏陀のサインですよ」と言ったら、もうおいおい泣き始めてしまった、感激して。私の言うことはそこなのです。

だから今ここでね、私たちは素晴らしい時代に生まれた。なぜかといったら、すぐにあのアフリカでも行けるし、ヨーロッパでも行けるし。全世界を回れるでしょう？ それで、バックパッカーで行けるわけなのです。ところが、それでお金はどうすると言っただけ、一日100円でいいし。帰ってきたらまたバイトすればいいしと。そういう決意をして真理を求めれば、そういうごほうびが来ます。ところが、なかなかそれができないようになっている。それが「因縁の力」で。「目覚めれば法に出遇う」、それが「酔いしれてしまう」からなかなかできないようになっている。

偉大な尼さんでね、太母（たも）という浄土真宗で得度された方で。この方は空（くう）を知っているんですね、話をずっと聞いていたら。この人はすごい政治家とかと交流があるわけ。それで、「こういうことはやめなさい、国が滅びるから」と、政治家に言うのだけど、「分かってはいるけど、やめられないのです」と、（政治家たちは）言うそうで。「分かってはいるけど、やめられないのです」（笑）。でも、まっしぐらに彼女のところに行くわけです、予言どおりになっているから。予言ではなく、ただ観えるからそう言っているだけ。「やめなさい、これでは国が滅びるから」、「でも、やめられないです」と。

今一瞬どういう状態かと言え、あの素晴らしい経典に書いてあります。荒れ狂った象が、もう追いかけてくるわけ、ガーッと。それが怖くて逃げている。そして前方には井戸があって、そこを飛び越していこうと思ったら、虎か狼がいて食ってやろうと。逃げるところはもう井戸しかなくて、ポーンと入る。それで、井戸にポーンと入ったらね、ああ助かったと。甘いものが舌に入ってくるなど、ふと見たら、ねずみはその甘い蜜が付いている井戸のつるをかじっているわけ。それで、いつ死ぬか、いつそのつるが切れて真っ暗闇に落ちるかという状態。そのような状態がこの政治家の話なわけ。「分かっているけど、やめられません」と、一瞬の今に死ぬかもしれないのに。

私は何のために私は生きているのだろうか、本当に来世というのはあるのだろうか、神とかがあるのだろうか、仏とかがあるのだろうか。どうもないらしい、金と権力とね。そういう物質的なものだけが（物事を）決定するのではないのだろうか。だって、新聞には（そういうふう）に書きたてるしね、学校では卒業生が大臣になったと言ったらもう大名行列をやって、パーティを開くし。全部架空、そのときだけ。だから、そういう愚者に付き合ったらだめですよ、賢者と付き合いなさいと。そのときはもう小説家になるとか、次官になったとかさ、そばの人たちは上げて、上げてってなるけれども、それが終わったら、ポッと捨てられて（笑）。何のこと（というような）（笑）、と言ったって、あまり意味がなく苦しいと思いますよ。

だから、まあボチボチと、気楽にね。脚の痛いときはゆるめて、それでそのときが来れば、どうしてもやるべきときはやって。カナダではソファに座らせたり、ソファに座ってもできない人は寝させたり、それもできない人はヒーリング瞑想をさせて。それで、今まで何10年も病院に通い、サイキアトリスト（psychiatrist：精神科医）に通っていた人が、ヒーリング瞑想でスツとなって、今度はもう第三週目に座れるようになるわけ。本人もびっくりして。実は皆さんそういう力を持っているわけなのですよ。

それは「チャクラ」と言っ、七つの、あるでしょう？ ところが、薬師経法研究中国の文献を見ればという、七つの仏陀のポジションがチャクラのポジションにあるわけ。というふうに書かれています。つまり、すべては仏（ぶつ）の力なのです。といったように、ルーパに全宇宙が入りますからね。クォークにスパーンと全宇宙が入ります。だから、そういうサンマサンブツダサ（正覚仏陀）くらいであれば、当然その宇宙、大宇宙をつくってしまう。阿弥陀のすごい仏国土をつくってしまうでしょうね、そうなれば。だって五劫（ごこう）の

間、ただ坐って瞑想した。

今、私たちは寿命がどんどん 100 年に 1 年だけ減っていています。お釈迦様の時代が、ちょうど 2500 年前で 100 歳、標準が。それで、80 で死んでいったんだけど、仏が出るというのは、最低限の寿命が、人間の平均寿命が 100 歳。最高が 10 万年。それ以上であつても出ない。それ以下であつても出ない。お釈迦様が生まれたのは平均寿命が 100 歳のとき。だから、100 年に 1 年だけ減っていくわけです。2500 年だから今 75 歳。それで、あと 2500 年経てば、平均寿命は 50 歳。それで法が消えると。なぜかという、とても簡単なことで、数年前はシエラレオネ (Sierra Leone) という国は平均寿命が 18 歳 (CIA の統計では、今は 40 歳くらい)。だから技術者なんて当然、出てこないし、お医者さんもできないし。五つの子が三つの妹を養っている。つまり、エイズが蔓延してね。エイズが蔓延して寿命がそのままであつてしまつて、国が成り立たないというデータを見たことがあります。

私の生徒を連れてボリビアに行ったけれど、そこはつい最近まで平均寿命が 53 歳といわれていました。仏教という状態でない。だから、こういう法を学べるのは、非常に恵まれているのです。日本の平均寿命が最近では女性が 86 歳ですか？ だから、結局ね、心がそういう進化の状態にあるわけなのです。私の小さいときの日本の平均寿命は 50 歳。だから、仏法 (を学ぶ) なんてとても難しいことです。時間というのはね、国によって違います。

だから、私が旅をしたら今から 50 年前の (日本の) 世界に入ることもあります。というのはね、ラオスの北の街を訪ねたら電気がないのです。夜、歩いたらね、夜空の星がサンサンと輝く。私はもうケラケラ笑い始めて。この夜空は私がね、五つのときに見た星の世界だと。そこに屋台があつて。50 年前は (日本も) そういう状態。今、東京の銀座に行けばもう全部規制化されて、最先端の時間帯ですけども、10 年前の北京に行ったらとんでもない、まだまだ。ところが、今、行ったらもう東京も顔負けするくらいのビルディングがどんどんできていました。上海に行ったらもうびっくりする。地下鉄が縦横無尽でね。でも、その北京に今回、行ったときに、そのなんというか、下町の奥に入ったら、30 年前の時空があるわけですよ。屋台があつて、そこで食べて飲んで。だから時間帯というのはね、同時に進んでいるわけじゃないのですよ。

ある空間は非常に進化している。ある空間はそのまま昔のまま。だから、この日本に仏法があつて平均寿命 83 歳というのが、突然 50 歳になるかもしれませんよ。そうなったら、もうダメです。「滅法」に入っていく、「末法」じゃなく。まだ「弘法」という時代になっているのかもわからない。「正法」(しょうほう)、それから「弘法」(こうぼう)、1500AD 頃に「末法」に入る。平均寿命 83 歳ということは (日本は) お釈迦様の時代から下がって 1700 年。まだ「弘法」の時代で「末法」に入る前だと。

というふうに考えたらピタッと合うと。なぜかといったら、ミャンマーでもスリランカでも、どこを旅行しても、その「法」が入ってくる、実践できる。だから、こういうチャンスは生かせばね、必ずこの高德はその周りの人も助けることによって、あなたのサンカーラ (行、形成作用) (に影響をおよぼすの) ですね。

サンカーラと言うのです。自我ではない、サンカーラだけが在ります。因縁によってこれができるクルクルまわっていくだけ。自我というのは存在しません、深く観たときは。それ

は「妄想」で。すべてはサンカーラ、このリアクションだけで。私は鏡の中で生きているのと一緒になんです。鏡の中のホログラムなのです。だから実体はないのだけれども、あなたも私を見ているでしょう、それで反応してこう、できている、この空間で。私が 0.1 秒狂わせたら私がプツと消えて、全然見えないはず。

サンカーラの方だけ。だから、次のサンカーラで、またこの宇宙の仏法に行くか分からない。仏法のある時空に。ところが、そういうこと（仏法）のないところに生まれるなら、もうなんというか。結局、アンデスに行ったけれども、500 年前の時空があるわけなのです。昔のまんま、本当に昔のまんま！糸を紡いで電気もないけど、じっと私を見るのだけれども。そこで、こういう真理をいかに教えようかと言ったって…不可能。ただにっこり笑って、ゆっくり歩いて、（アンデスの人に）あー、珍しい者が歩いていると（思われるだけ）。

だから、その国を非難するのは簡単だけれども、あれがないこれがないと。でも、よくよく見たら、この世界で仏法のある国はなかなかないのです。お坊さんがいないときも素晴らしい経典を残してくれているから、私もこういうものが読めるわけなのです。だから「すべては因縁をいかに生かす」か、この短い人生で。それでうまくいけば、たった一つの法が分かるだけでも、この法が蜘蛛の糸のように切れないで、ずーっと（その後を）つないでいく。

私はこの後、3 週間くらいお寺に入って護摩焚きの行をします。（突然、言われても）全く意味の分からない話でしょう？ 9 年前にお釈迦様が最初に説法した場所で、私は孔雀が踊っていました。その時にビジョンを觀せてくれたわけ。それが 9 年後にその場所を発見したのです。昨年（2011 年）の末、インドネシアのボロブドゥールに行って、私の觀たビジョンはここだと。私がね、私の觀たビジョンは妄想だ、関係ないと思ったら、それはプツーンと切れていたと思います。私がサルナート（インド；釈迦が悟りを開いた後、初めて説法を説いた地）で見た映像と全く一緒。

そこ（ボロブドゥール）で、ムンドウ（Mendut）というお寺があるんですね。1000 年前に仏教が消えたらしいのだけれども。密教なのです。すぐ分かった。手の結びがテーラワダ（南伝）じゃないのです。なんとそこに Mendut Buddhist Monastery という寺院に、大日如来がね、金剛杵をこう持っているのです、ちゃんと。それで、その最高のご本尊を中で見せてもらって、「これはカンボジアから来た大日如来です」と言った。そのお寺はまあ宮殿みたいでしたよ、どこかの王家がサポートしていたのでしょうか。

「このお寺をあなたの自由に使ってください、これはあなたのものです」と。ただ、そのボロブドゥールの門前に入ったときに、なぜそれ（ビジョン）を觀せてくれたか、ということが、そのとき分かった。だから 9 年の年月がかかったわけ。こういうお話をしないで、ただスッとやったら、水源先生って頭がおかしいのかな、なんて（思われちゃう）（笑）。9 年かけて、そのままだただ修行やったから、門前に立たせてくれるわけ。あとでこのお寺 Mendut Buddhist Monastery で、「これはあなたのお寺ですから使ってください」と。そのお寺は大日如来があり、護摩の法灯が消えているわけなのです。そのお寺の住職さんは、スリ・パンニャ・バウト比丘といって、世界的に有名な方。40 数年比丘修行を続けている方でね。深々と頭を下げて。私が下げるよりもっと深く下げられてしまって困ってしまうくらいで。

それで、ああ、法灯を燃やしてあげなきゃいけないのだなど。たまたま私は、弘法大師様に帰依していてね、私が一番、最初に修業させてもらったところが、なんと、親鸞大師が修行した、そのおんなじ御堂でやっているわけ、高野山でね。

だから、その新聞にちやほや大臣になったとか、ああこれで我が世の春だとか(笑)。それはあの走馬燈というのがあるでしょう、くるくるくるくる、そのようなものです。真理の旅というのはこういうことで、数限りないお寺に行って頭を下げてきました。日本も津々浦々、北は稚内から南は九州の鹿児島まで、四国もぐるぐると。その後、とうとう日本は終わったから、カナダでゆっくりして、今度は中国。ウランバートルからチベットから。行くところすべてが仏国(笑)。なぜか、ヨーロッパに行きたかったけど、いつのまにか仏国だけ(笑)。それで行く先々で頭下げて瞑想して、お坊さんたちと楽しい話をして。まあ愉快的な旅ばかりしてきたけれどね。バックパッカーで。まあ前世をずっと観たときに、やっぱり深い因縁があつて、当然そうなっているわけです。

だから、皆さんがここに来てこうして話を聞いているということは、やっぱり相当な仏縁があるということ。なぜかといったらね、普通カナダの方は床に座れないですよ、クラクラしてしまうと言ってね。

なぜかといえば、スリランカにはゴエンカ道場、(瞑想を)教えるところがあつてね。そこで3日目でバンガー(バンガー・ニャーニャ：壊滅智)に達したわけですね、彼らに言わせれば「あなたは highest nature に立つでしょう、私たちはもうあなたに教えることができません、すぐゴエンカさんに会ってください」と言われました。

なぜそれができたかと言えば、結局『サティパッターナ』(念処経、四念処経)というお経があります、四念処。アナパナ(入出息念)のことを、これをやれば必ずやアナガミ(不還果)に達します、7年これを続ければ必ず一つ得るでしょうと。それから次の3年以内にまた得るでしょう、もう一つやれば1年以内に出るでしょう、もう一つやれば1カ月以内にと。というのは、もう結局『サティパッターナ』は、四つの手法を書いてあるわけなのですね。カーヤヌパサナー(マハシ系)、ヴェーダナヌパサナー(ゴエンカ系)、チッタヌパサナー(禪・念仏系)、ダンマヌパサナー(パオ式)。私はチッタヌパサナーの禪をやっていたわけなのです。

それで、ダンマヌパサナーのパオで(人よりも早く)すぐ通過したのですよ。だから、そういうふうにゴエンカさん(ヴェーダナヌパサナー)のところまで、ずっと坐ったら、ずっと修行が進みました。それで、バンガーからサンカーラ・ウペッカー(サンカーラ・ウペッカー・ニャーニャ：行捨智)には、ほとんど到達できないみたいです。(私の場合)すっすっが入って最後まで通過しました。『サティパッターナ』の経典に書かれていることが証明できたわけです。ただ一つカーヤヌパサナーのマハシの手法が(最初は)はっきり分からなかった。何の手法でやっているか。そうしたら rising falling ということが分かって。

それで、あのナウヤナという2000年も続く修道院で、スッとやったら、やっぱり同じ現象でサーッと行ってしまうのですね。それで、どの手法をとっても到達できる、そして『サティパッターナ』は(核心)の経典である」と。このテーラワダの核心の『サティパッターナ』、ヒンズー教の神様も手に持って、『サティパッターナ』と本を持っているらしいですね、

もちろん北伝の教えにもあります。それで、私が『サティパッターナ』の手法を知っているということだね。スリランカの弁護士さんが私を 300km の道のりを車に乗って訪ねてきて、「是非、教えてください」と。というふうに皆さんがね、心を静かにして真理を求めていく旅をすれば、私のようなできの悪い者でも…本当に私、小学校でビリなのですよ、本当に(笑)。だから皆さんもできないわけがない。学校から帰ったら、ランドセルをボーンと投げて、おにぎりつくって遊びに行く、その繰り返しで、廊下に立たされて(笑)。だからね、誰にでもできる。私は凡夫でございますから。

皆さんも、本当に真理の道を歩いて行けば、必ずや天界が応援してくれます。ということで、インドネシアに行って、この法灯をもう 1 回燃やすと。つまり 本当の法の旅を続ければ、クモの糸のようなつながりが今のような素晴らしい縁が続き、たくさんのご褒美を戴きます、という仏の慈悲を頂きます。

今見たらね、今日のレポートにあったけれど、なんか今、アメリカのテキサスで、1000 人のお坊さんが集まって、お祈りをすると。それはそうでしょうと。それは多分ダラスでしょう？と。このダラスから今すべての悪い風が起こっているから。だから、瞑想する人は分かりますと。それで、インドネシアの方のお坊さんもそうでしょうと。今、インドネシアはもう仏教が始まり始めて、たくさんのお寺ができています。

イスラムではどうもやっていけないと。特にジャワ島はすごい勢いで仏教が広がっているらしいですよ。だからお坊さんがいないのですよ。だから、せめて私が行って、前回も行ってすぐに法話会を開いてお話をしたりしましてね。あっちの大学生から仏教協会から、すぐ来てダーツと集まって。それで私が説明していったら非常に喜んでくれて。というふうに、さっきサルナートで見た…。(サルナートは) あのでっかい町、(インドの) ワラーナシー (Varanasi) の郊外にあるのですね。それで、9 年前に見た門前ビジョンがそこにあった。

それで、私のつながりは、この弘法大師様にずっと帰依していたから、結局、本当の護摩焚きというのは、そう簡単にさせてくれないらしいのだけれども、ずっとお寺を開けて、それで今度ミャンマーで待っているお坊さんがね、私の家にちゃんと護摩壇もあるし、不動明もあります、使っていません(笑)と。すごいお金がかかるらしいです、あれ(護摩壇)。だから、ちゃんとでき上がっていくわけなのです、次から次と。まあ、これを本に書けば、「嘘でしょう？」と。「作り上げた話」と。でもこれ本当に現実の話。

私が「カイルス山に登りたい」と言っていたのは、9 年前に何か知らないけど、やっぱりその姿が観えたわけです。やっぱり 9 年の年月がかかりましたね。その場に行くまでに。そう簡単に「はいはい」とは回答してくれない。大体 9 年かかる、何か不思議なもので。それが一体、何の意味があるのか。やっぱり 9 年修行していかないといけないのです。9 年くらいはずっと迷わず。そしたら「ハイ」と見せてくれる。という報告を皆さんにできるわけなのです。だから、仏法は本物です。だから、どれが本物であるか、どれが自分に一番合っているかっていうのは、それぞれで確かめてください。私はお手伝いができるかもしれないけど、やる方はあなた方。私の知っているかぎりの方法で、お手伝いをただ、するしかできませんけれども。あなたがたが山に登って行くしかないです。そういうことで、どうでしょうか？

質疑応答

ニミッタを出すには

【参加者】

瞑想のときにニミッタというのがなかなか出なくて、コツみたいなものがあれば教えていただきたいと思います。

【水源師】

(2012 年秋の) 合宿に来たら良かったですね～ (残念そうに)。ニミッタが観える人が沢山、出ましたよ。だから私も不思議に思った。ただね、間違った information (情報) を受けて修行した場合には、観ないです。観た人はほとんど、全然知らなくて、バーッと観えてしまった。私の言ったとおりのままやっているから。

で、(ある人は) 3 年半かかり、やっと。もう 10 年くらいこの人はやっているのだけれども、タッチング・ポイントというのが始めてわかったと言っていましたね。私がかうだよ、とやっていったら、あー！そうか、と。3 年半。この方は、もう、ありとあらゆる瞑想会とか、いっぱい行ってもう。結局、言語の問題でね。通訳を通してやるとかね、それから通訳をしている人が、大体の予測で言うから。体験したら、私みたいにこうだよ、と言えるのだろうと思うのだけれど。多分その問題があって、ほとんどの人が観ないで諦めてやめてしまうとか。

その前 (の合宿は) ね、たった 2 日だったから。もうギュウギュウに (プログラムを) 詰めたから。今回はゆっくりさせてください、と。そうしたら、沢山の方がニミッタを体験しました。ほとんどの人がすごい体験をして。過去世が観えた人、ジャーナ (禅定) に入った人が 2 人。もう十数名がニミッタを観て、その第一禅定に入る前段階まですぐに行ってしまう様でした。ただ私が日本にいないので、指導できないのが残念だけれども。あとは、他の先生がうまく指導してくれると思うのです。

私の場合は、『サティパッターナ』の体験をしてしまったものだから、その手法で、禅であろうが、テーラワーダ (南伝) であろうが、(生徒が瞑想をしているときに) これはどの状態にいるか理解できやすいと思います。ところが、一つ (の手法) だけしかやっていない場合には、とても難しい事になると思います。もし間違えて失敗したら、どうしよう、と。だから、キチッとこれだけ (一つの手法だけ) やりなさい、というのも正解です。私は因縁によって、あっちの国、こっちの国、とありとあらゆる人と付き合っているうちに、自然とそういう手法が手に入ったわけで。お釈迦様も、しょっちゅう旅をして、法を広めていた。で、私もなぜか旅が好きだけれど、もうこのごろはもう、来年あたりはゆっくりしたいなー、と思っています (笑)。

まあ、(皆さん) ゆっくりしてくださいよ。ゆっくりその、足をくつろがせて。だからその状態で、まず必ずヒーリング瞑想をさせました。ヒーリング瞑想でチャクラのバランスがとれますね、(チャクラの) エナジーが。で、そのときに使ったのが、カナダでよくやるのです

けど、(シュンガイトという特別な石を) この第六チャクラに当てて。ここから、エネルギーのバランスとらせます。で、どうでしたか? 体験は。

【司会者】

本当に日々のストレスですとか、疲れ、身体の疲れも心も疲れも、私の場合は非常にとれて、楽になりました。

【水源師】

だからまず、そういう状態で疲れを取ってから、坐らせます。その時に、私はどの手法を取ったかといえば、あの増幅器みたいに、この水晶玉で Bio-Energy を発射するわけです。『達摩多羅禅経』にはっきり書いています。「色即仏」(しきそくぶつ)。つまり「物質も仏である」と。だから偉いお坊さんが「そこの瓦(かわら)も仏ですよ」と。体験が分かって始めてこれが使えます。

だから、(坐り始めた) 最初は良いですよ、ずーっと。でも突っかった場合には、どこが間違っているか、そういうふうに教えてもらえる人を探すとよいと思います。で、進化したらそれが正しい。進化しなければ、この教えも自分に合っていないから探さなきゃいけない。経典には書いてあるけれども。「体験」するしかないのです。非常に奥が深いのです。それをわかっているから、水晶玉をどうして Bio-Energy を発射できるわけなのです。

今こうしてニミッタの光を(皆さんに) 当てているけど、わからないでしょう? でも、発射しているのです。白光を発射しています。だから結局そういうことで、やっぱりあの指導者としては、助けてあげなきゃいけない、すべての、全身全霊でもって。ありとあらゆる方法で。で、この人が独り立ちして歩ければ、あとブッダゴーサ(の手法)とか自分に合う修行で、やっていけばいいと思います。まあ、そういうことです。

なにか他にありますか? 何でもいいですよ。ま、気楽に、気楽に。何でも質問してください。経済の事でもいいし、政治でもいいし、未来についてもいいし。なんでもいいですよ。質問に上下はないのですから。

風水と瞑想

【参加者】

さきほど、水晶玉も仏であるとおっしゃっていただいていたと思うのですが。ちょっと全然、仏教と関係ないのですが、部屋の掃除とか風水とかで、物を整えたりするわけじゃないですか。そういうことで、たとえば瞑想がやりやすくなるとか言うこともありますか?

【水源師】

あります。だから、高度 1000 メートルでやる瞑想と、地上でやるのは全然違います。で、高度 3000 メートルでやれば、実に楽です。で、高度 4000 メートルでやれば、それはもう、毎日が楽しいくらい。チベットが 4000 メートル。で、3000 メートル級はクスコです。もう

お経がスラスラ読める。地上で唱えたら、あー頭が痛い（笑）。という体験をしました。

やっぱり、環境によって変わります。どこでも、どこであっても一緒だと思うのですが、難しい事と思います。だから、まあ自分に合うように環境を変えてね、お花でも飾り、それから嫌なものはさけて、自分の気に合うように。というのは、すべてがバイブレーションを出していますから。そのバイブレーションがピターッと合ったら、調和がとれて良い、と。合わなかったら、やっぱり合うように変えて行けば良い結果をもたらすと思います。

今はね、あの皆さん、hand phone（携帯電話）を使ってらっしゃるでしょう？ 強烈な電磁波を出しているのですよ。だから電磁波が通る川があるのです。見えないでしょう？ その川が寝ている寝台にあれば、必ず cancer（癌） になります。

カナダ政府の電波局に勤めている方が解るわけです。私が電波で cancer になるのではないかと（笑）。シュンガイトを持ってきて、これでやれば防げます、と言っていました。電磁波を防御する（物質を）含むわけですね。ヨーロッパでは、どこまで電磁波の強さを発射できます、と規制されていて。北米は（そういった規制が）ないのです。野放し。日本でも聞いたことないでしょう？ その、（電磁波の）川の流れ、というの。だから、家の中全部を無線じゃなく有線でまわして。有線でやれば少しは大丈夫、家の中は。それで、頭は痛いし、おかしいなと思って。そうしたら、たまたま、そういう器具をヨーロッパから持ってきている人がいてチェックしてもらったら、ものすごい電磁波が通っていました。

また、なぜカナダで、瞑想に（人々が）来るかといえば、（ちゃんと）チェックするのですよ、身体を。バイオメーターかなんかがあってね。瞑想した後、スッとよくなっている。彼らは理論だけじゃ納得しないです。オーラの写真を撮ってみたり、実際にそのバイオのパルスを計ってみたりと。現実的ですよ。

今の日本の現状

【参加者】

（※2012年9月30日野田内閣時点、尖閣問題などのニュースが比較的大きく取り上げられていた頃）

日本の政治とかがより混乱していて。あと韓国とか中国とかが、外交や領土問題で、すごく荒れていますけど。日本はうまく切り抜けられるのかなと思うのですがどうなのでしょう。

【水源師】

簡単に切り抜けるけれども…。やっぱり、アメリカの討論会を聞いていたら、ワシントン DC での。アメリカ政府の高官が言うことは、今日本の政府の言っていることと同じなわけ。で、（アメリカの）ジャーナリストがこうこうじゃないか、と言ったら、タジタジになっているわけ。結局、前原さんがね、これ（政治的なアクション）をやる前に、アメリカに訪ねて行っているわけなのですよ。で、なんで貴方は前原さんをお呼んだのかと。何であの石原さんにこういう風に言わせるのかと。貴方（アメリカ）がヤラセではないかと（聞くと）、そりゃあそうでしょう（笑）と（返ってくる）。

で、対外的に（アメリカは）知らん顔してるいでしょと。でもワシントンDCでは（アメリカ）ははっきり言っていますよ。だから、すぐヒラリー・クリントンに報告に行ったわけですよ。どうしましょう？と。（国防長官の）パネッタを送って。で、ヒラリー・クリントンもここまで…。彼女は、優秀なハイスクールのクラス会の、生徒会長でも、先が見えないから大変な問題を起こしていることが理解していなかったのですね。（元国務副長官の）アーミテージと言う人も、ここまでなるとは見えなかったわけ。

アーミテージが日本をコントロールしているからね。GHQ で全部。だから、この人に反対したら全部クビだから、首相も。結局この原因は、アメリカが火をつけているわけ。政治家はもちろん、（こう言ったことに何も）言うことができないし。だから（政治家が）「分かっているけど、やめられません」と言ったのはここがポイント。それをジャーナリストが言わないから、日本の人がこの国はいったいどうなっているのだろうと。メディアも全くでたらめなことを言うし。ところが、もし英語がわかって、ワシントンDCの討論を見たら、すぐわかるのだけど。やっぱり外国に私が住んでいるメリットでね。

すぐツーカーで（笑）わかるのです。結局、後ろで火を付けているわけです。結局、中国の方は6割がアメリカに反対しているというのは、中国出身の方がアメリカ政府の高官のポジションにいっぱいおるでしょう。だからツーカーで（情報が）行っているわけです。あっちの大学にも。日本の方はアメリカの方であまり少ないのですよ。少し出たけれども。これだから、本当の開放政治をやって、まず日本国民に全部、最低1カ月、休暇を与えるという方式で、まず皆さん楽にならなければ。だから今、アーミテージさんが困ってしまっただけでね。彼が後ろで手を引っ張ってやっているから。知らないでしょうこの事？この人が日本に関することをコントロールしているのは、この方だから。この指令で全部、発生してしまっただけでね。だから今、修復に向かうでしょうね…。というのは、結局、修復しなければ、アメリカが破産してしまうから。

【参加者】

アメリカは中国にも影響力はあるのですか？

【水源師】

いや、アメリカが中国から莫大なお金を借りて、そのお金でヨーロッパの結局EU bank をつくっているから。EU bank はもう破産でしょう？だからあの、QE infinity（QE: Quantitative Easing: 量的緩和）って言って、無限に刷り出すと。これをサポートしているのが、日本のお金と中国のお金。ここでケンカされてしまったら、ある程度は良い訳なのです。なぜかという、南シナ海（South China Sea）の利権があるでしょう？ その利権をアメリカがコントロール出来るでしょう。

で、手を付けようと思ったのだけでも、アメリカのジャーナリストがアメリカ政府に「貴方達は、あのベトナムで200万殺して。カンボジアも全国土を爆撃して、後で生まれた、私達が貴方たちを良いと思うのですか？」と。「1901年にはフィリピンを制覇したでしょう？」とはっきり言うのです。アメリカのジャーナリストは、はっきり言います。日本の方は全部

これ cover up されてしまっているから、混乱して、いったいどうなっているのかと。で、皆目をつぶって、困ってしまっているというような。で、その張本人はアーミテージさんで、指令しているわけ。だから、前原さんが3日前にワシントンを探ねて、許可をもらったわけ。こじれたから、びっくりしてパネッタさんを送ったわけですよ。

アメリカの場合は、Foreign Study Institution という、ここから全部、オバマ大統領、ジョージ・ブッシュ、クリントン、全部出ている。ここに入らなければ、大統領になれない。で、ここで石原さんが演説したわけだ。そのあとで、尖閣問題を起こしたわけ。で、アーミテージさんがこうやってね、同盟であろうと、好き勝手してもいいということじゃないですよと、始めて言った。でもやった本人はホワーンとしちゃって、だってアメリカの許可をもらってやったのに (笑)。そういう状態です。だから今アメリカが修復させる。というのは、日本がやっぱり今、すごいものを作っているでしょう？すべてナノテクノロジーからコンピュータから。これを中国に行って加工して、この加工をしたあれで、アップルとかスマートフォンで、グーグルにしる、iPhone にしても、持っているでしょう？ だから、修復せざるを得ないから。

まあ (笑)、・・・政治家が見えないということ。見えないということは結局、言語の障害があるから、そういう情報すら分からないでしょう？メディアも分からないでしょう？それは、機密じゃないです。ちゃんと見たらいい、討論しているから。もうポンポン出て、あっちのほうで正確な情報を送ってくる。それで今度 国連で言ったってさ、皆わかっているわけ、その討論の内容が。という事です。わからないのは結局、その政治家はね。取引に忙しいから、勉強する暇がない。全部、任せる。任せられた官僚は現場を知らないでしょう？労働者として一緒に働いたこともないでしょう？

全くかけ離れているわけ。やるとしたら、大使館の大使を呼んで、日本料亭に入って、「大丈夫か？」「はい、大丈夫です。」とかいって (笑)。それでことを済ますと。だから、結局ね、「現場」を知らないで、物事をやっているから、結局、福島原発も起こっているでしょう？あれはものすごく恐ろしいもので、MOS 型 と言ってね、アメリカで使えないから、日本に押し付けて、GE の失敗作なのです。で、その原発がなぜ危険かと言ったら、そのデータは、三菱重工のデータによれば、空冷核爆発をやっているわけ。そのデータ、それでロスアラモスで追跡したら、そのとおり空冷でね、熱を加えずに核爆発をやってしまう。

だからそれをね、アメリカの原発をつくる人と、それとチェックする人がいるわけなのですよ、科学者が。データを見せてパイプを見せてくれたらね、スチールがこれくらい2-3センチ厚いのですよ。(それが) 破裂しているのですよ。だから「亀裂」じゃない、爆発しているわけ。これは空冷核爆発している。それ以上のことは考えられない。で、福島のは、核爆発が起こっているわけ。detonation と言ってね、水素爆発の場合は、光を出すのです、まず。あれは最初に爆発した後で光がパッと光った。あれは水素に火が付いたのだけれども、核爆発を最初にやっていると、最初に光は見えません。だから結局、この核の問題が今非常に重要なわけ。この汚染をいかに早く食い止めるかと。で、その時に20隻の軍艦と3万の軍を送ったのですね (この巨大な大群を送る計画と事項には最低6か月の時間が必要です)。あの当事、すぐに。2隻の空母も行ったら、すぐ逃げてしまった (笑)。灰が落ちたからね、全

部の計器が使えなくなるわけ。空母。空母をつくるのに20年くらいかかるからねと言います。

今やっと中国が空母1隻をつくったでしょ。この2隻が台無しになったら大変だから。急いで原発の灰を洗い流したわけ。で、逃げさったわけ。手のつけようもないと。ただ一つの、この解決法は、あのニューヨーク大学の加来さん（ミチオ・カク：加来道雄）という教授がいる。ミチオ・カクという日系アメリカ人で、ハワイ生まれの方。この人が正確に回答をした、何をすればいいかと。その時にやれば、今は完全におさまっていたのだけれど。実に明快な回答をパパーッと。この方は世界のトップ級ですからね。高校の時代にもうハーバード大学に推薦されて、お金を払わないでも入れるようになっていた。

なんか安倍さんは坐禅するのですって。それから、石破さんも坐禅するのですって。なぜかと言ったら、前の首相の…、坐禅を良くする人…。まあ、坐禅するから少しは良くなるかなとか、和尚さんが立派だったら、なんてそれを期待しているけれども、さっき言ったように『達摩多羅禅経』なんて見てないでしょう？ だから、その突っ走ってしまっていると思います。仏教の根源から離れて。そこがちょっと難しい。

心配しなくても…あの、解決しますよ（今の中国、韓国と日本の問題は）。というのは、日本のすごいところは、中産階級(Middle Class)がすごいでしょ。アメリカは中産階級がほとんど潰れてもうないのです。カナダでもだんだん減っているのですよ。で、韓国の中産階級ももうすごいでしょ？ ダーッと。日本を追随。だから経済が強いし。中国の今、中産階級がダーッとでできるけれども、やっぱり汚職が激しいからね。でっかい国だもの。ちょっとやったらダーッとお金が入って来るから（笑）。東洋はやっぱり仏教があるからちょっと違います。中近東みたいにならないと思う。それでどうでしょうか？回答は。わかりましたか？まあ、失礼ですかね、大学の先生にこんなことを言うのは逆に（笑）。

【参加者】

全部はちょっとわからないですけど、少し分かりました。

【水源師】

ああ、少し（笑）。だから、裏がこうなっている、という。なぜかと言ったら、私の友人が北京大学の教授なのです。foreign institution というトップ級で動かしているから。友人の先生は、私は専門の事より知らない馬鹿なのですって。皆、私の友人の先生は馬鹿が集まってやっています（笑）と、とても謙虚な方でした。

【参加者】

まあ専門のことばかりやっているとか…。

【水源師】

そうそう。それはもう、（専門のことは）明快に見えるけれども、他は見えません、そう言っていましたよ。

まあ、（その他に）何かありますか？まあ、ゆっくり座ってくださいよ。ここは座談会と一

緒だから、かしこまらないで。

私の高校時代の友人達は、は東京大学にいて、教授になったりして。彼らは天才的で、いつもトップだったけど、私は成績が悪くてね～（笑）。まあ、私の様な馬鹿でもできるのだから、あなたたちは十分！ だから、私はウソつかないですよ。私は小学校でビリだったと。だから安心して、仏教というのは簡単です。

在宅で真理の道を歩む方法

【水源師】

まあそういうことで、何かありますか、もっと。何でも聞いてください。精神的なことでも何でもいいです。大体カナダでも、4人くらいお医者さんが来ているけれども、お医者さんが来て、悩みをうちあけて、私はどうしたら良いでしょうかと。回答したら、大体良い方向に。自信はあります。

【参加者】

在宅で真理の道を歩むという方法についてですね。それは具体的にはどのようにしたら…。

【水源師】

結局、さっき言った宮沢賢治さんの詩。これが回答です。実に明快な回答です。この心で勉強していけば、必ずや、すごいところまで到達できます。そのままその心で。今度は坐禅には手法があります。アナパナ（入出息念）が基本。呼吸。これをどういう風にしていくか、という手法がわかれていますけども。やっぱりこの 四つの『サティパターン』、四念処。お釈迦様の言ったこれは間違いない。よく見たらこの四念処が原本で、この修行法が書いてあります。

結局、私が体験しているから、こういう場合には、こうだというふうにやって、結局、忍野八海（の合宿）で、もうショックを受けるくらい、良い結果が出たわけです。私は国々をまわっているからこの手法がわかりますけれども、一国にいてひとつのことをやっていたら、非常に難しいと思います。だから、それぞれ（ひとりひとり）全部違うから、インタビューによって、教えていかなきゃいけないのです。あなたの場合はこうしてくださいと。一緒じゃないのです、速度も違います。物の見方も違うから。まあそういうところで、個人インタビューで突っかかっているようなことがあれば、説明します、こうしてくださいと。問題があったら、メールをくれれば回答しますと、そういう事で良いでしょうか？

心心伝印

【参加者】

あの瞑想っていうのは、まあ仏教以外でも、個人的にされていたり、まあいろんなやり方があると思うんですけど。

【水源師】

はい。

【参加者】

瞑想とか、意識の集中とか、神社でお参りするとか、仏様にお参りするということも意識を集中して念ずるところがあって。このように、ただ何か自分流にやるのとですね、その仏教の瞑想に基づいてやるのとは、どこが違うのでしょうか。

【水源師】

つまりね、私が瞑想に本格的に入る前に、私の先生がね、不思議なエネルギーをポーンと与えるんですよ。「心心伝印」（しんしんでんいん）と。先生がいなくて本だけでは絶対無理な、心心伝印の、この心から心へ、印鑑を押すみたいに。これで、発生して始めます。だから、ほとんどの人はこういう縁にめぐり合わないから。本の通りやっけていてもうまくいかないのだけれども。本の中でもないものが一杯あるわけなのですよ。ここは必要でここは必要ないとか。

つまり、一番大切なところは「心心伝印」ですね。いかに師に出会うのが難しいか、出会ったらもう幸い。だからお釈迦様に会ったら、沢山のアラハト（阿羅漢）様が出たでしょう？で、今はズーっと薄れて来ても、やはり「心心伝印」で。だから、私は知らなかったけれども、（私は）随分とたくさんの、偉いお坊さん方々からエネルギーを与えられていますね。あの通度寺（トンドサ；韓国）のね、あの有名な和尚さんがいるのですよ。月下（オーラ）Sunimuという、最高位の法主みたいな方が。今は亡くなりましたけど。で、私が出るときに後ろから強烈な観音様のエナジーを送ってくれるのですよ、観音のエナジー。でまた、私の先生は、ポーンッと言って強烈な文殊のエナジーみたいなのをバーンッって入れてくれて。私はその力でもって、ここで浄土禅ということをやったわけですね。

だからただ私のみ（の力）じゃなく、やりなさい、という力が入っているから結果が出るわけ。ダーッとすごいもので、いまこの日本で本当に浄土を観た方が何人おられますか？観たいと思っても観られないでしょう？でもパッと観えてしまうから。で、話を聞いたらそのとおり、経典にも書いています。という事は、浄土に生まれる事が決定したのです。間違いなくそこに生まれる。

ということは、（やはり）エナジーで、本当のものを観た人から教われれば、そういう結果がでます。観ないで本だけでは無理。結局すべてがエネルギーだから。いいですか？

【参加者】

あの印光大師という方は、いつの時代のどこにいらっしゃった方なんですか？

【水源師】

1930年くらいだったかな？

【司会者】

ちょっと年代は忘れましたが、1900年代の方で（※ 1861-1941）、中国浄土宗の第十三代目の方でしょうか。二代目が善導大師、一代目が（廬山の）慧遠（えおん）大師でしょうか。四代目が法照大師、五代目が少康大師で、十三代目に当たられる方だということで、水源先生からこういった方の存在を教えてくださいました。

【水源師】

結局、善導大師様から法然、それから親鸞大師様とかが出られていますからね。やっぱり、これを見逃す事ではできないと。十三代目が開示を残して、きれいに浄土に生まれる方法を書いていますが、私は全く別の方法で浄土を観て、この浄土禅をやらせたら、同じ結果を出していますから保証します。で、この大師様が言ったのは本当です、できます。

ただ、誰かに祈ってもらってでは、浄土には生まれません、それはありえない。また、そういう事を教えることは非常に危険です、将来。というのは、この（教えられた）人は必ず悪い因縁をもって行くから。因縁の力というのは、すごいことなのです。なぜかと言ったら、「個人の因縁」プラス「大地の因縁」「国の因縁」「宇宙の因縁」。天体のまわりに全部絡まってるね。ここで一つ、大きく間違った場合には大変な結果をもたらします。

私が（パオに）いたときに、修行を終えた方ですね。40代くらいかな。はっきり観えない、と言うわけなのです。なんで観えない？と聞いたら、私は前世で、先生の言うことを聞いて、そのとおりに教えたんだけど、この教えが間違っていたがゆえに、ざらざらしか観えないんですと。だから今生では、絶対私は教えませんと。彼は相当、高い所にいたのだけれど。

因縁を観ていない人はその恐ろしさを知らないのですね。観えないで、教える方がどれほど恐ろしい因縁を作り出しているか。先生のことを幾ら信じて、それではだめなのですよ。その先生が間違っていていたら、教えられている人はらうまく修行がいかない、次の人生でね。だからお釈迦様は、自分で観なさいってはっきり言っている。ただしね、間違っているけど、聖者に会った場合は救われるわけなのです。なぜかと言ったら、他の比丘が同じく修行していたけど、私は地獄から出てきたと。よく出てこられたね（笑）と言ったら、彼はカッサパブツダの時に、ちゃんとお布施して供養して、その功德で出られましたと言っていた。

アングリマーラと菩薩行

一劫の間、もう熱い熱いと火の中で苦しんだそうです。知らない間は、沢山の方々はまだ、天界に行って下りてきた人とか…。結局ね、だから十二因縁のここを観る必要があるわけ。じゃなきゃ、全部空想になってしまう。一般の人を惑わしてしまうから。南方仏教で一番有名なのはね、アングリマーラの話。アングリマーラは 999 人殺したのです。で、その指を飾って、最後の 1000 人目を殺せば、悟りを開くという間違っただけの教えを受けていたわけ。アングリマーラは結局、非常に、純粋だったのでしょね。殺そうと思って殺したわけじゃなく、ただ行のためにやっていったんだけど。ただ、最後のお母さんを殺した時にはもう無間

地獄、絶対出てこれないところに行くから、お釈迦様が出てきて止めたの。で、アラハト（阿羅漢）まで行ったから、涅槃で、地獄に堕ちない。

でも、不公平じゃないか、殺された方は（笑）、殺した人間が涅槃に行って殺された方はどうなるのですかと。でも、そうじゃないのです。さっき言ったでしょう？ 菩薩行で自分の身体を殺された代わりに、そのご褒美としてアラハト（阿羅漢）になった方に供養したということになるから。まあ必ず（殺された人）全部が今度はアラハト（阿羅漢）になるでしょうね。そこの問題。言ったでしょう？お釈迦様が修行している時に、虎に食われたでしょう？で涅槃に行ったでしょう？仏に供養した、ということになるんです。食べさせてね。だけれども、だけれども、虎は修行している比丘を涅槃に送ったから、必ずや素晴らしい因縁をもらうでしょうね。虎は食べる性質でしょう？罪を犯してないわけ。

【参加者】

役割で食べている。

【水源師】

そうです。そこを勘違いしないで。

【参加者】

自分の意志で食べているんじゃないかと、食べる事がその虎の意義と言うか、役割があるという。

【水源師】

で、逆に涅槃に送ったから、その功德はすごいことかもしれませんよ。

【参加者】

そうしたら、自然の食物連鎖も結局、食べられるものが、あちこちにいますよね。魚とか、シマウマとか。そういう存在も功德を積んでいるという。

【水源師】

そうです。だから、説明したでしょう？ 菩薩行をしているかも分かりませんよと。だから、この短い（期間の物事しか見られない）私たちの頭で決定してはいけません、ということ。ああだ、こうだと言って、ますます混乱するよりも、深く真理の道を歩んでください、人生短いですからね。

老人病が流行っているというけれど、実はただ坐って、静かに、（そこに）あるものを心で観たら、心と現実の世界が一体になり、肉体は衰えても、老人病なりません。ところが、今はもう大自然と心との繋がりを遮断されている事が多いでしょう？ 全部。心に本当の情報が入ってこないから、心と身体の繋がりにおかしくなり始める、ことによって老人病になりやすいと思います。

【参加者】

ボケはそこに原因がある？

【水源師】

そこです。

【参加者】

もうひとつ私も、さっき最初におっしゃっていた、今の現代の人たちが、たとえば本だけで勉強して、それが現実とつながっていないというところに、大きな苦悩の原因があると、おっしゃっていて。私もそのこと非常に強く感じているんですけど。

【水源師】

あのね、「虎の巻」を見てもね、本当に回答はわからないでしょう？

【参加者】

特に学者とかが研究していても、結局、本の中に真実があると思って研究しているような感じで。だから現実がどうなっているか、ということを見る力なくなってしまうている。

【水源師】

そうそう。だから結局、『達摩多羅禅経』とブツダゴーサが同じものであるということを一
人の学者も発表していないでしょう？ニミッタのことが全然わかっていないから。ニミッタ
のことをきれいに書いてあるわけです。カシナ（十遍）の瞑想法のこともきれいに書いてあっ
て、色とかも。これがカシナの行。（これを読んでも）方はチンプンカンプンだと思います。
体験すればすぐわかります。

【参加者】

そうですね。だからその体験しない、体験の価値を認めない、というか。だから、本当に
頭の中でいろんな知識を組み合わせで研究しているということが多いと思います。

バーチャルリアリティの恐ろしさ

【水源師】

だから結局、「バーチャルリアリティ」。「バーチャルリアリティ」で実際に爆死するでしょ
う？で、そのウォールストリートはそのデリバティブで、「バーチャルリアリティー」で、
何億兆円という実際のもの（お金）を引き上げたでしょう。

だから、アメリカでは4件に1件が破産ですよ。失業率は25%、ピタッと合う。恐ろしい
ことなんですよ。

だから、「バーチャルリアリティ」と「現実」は合って、初めてそれは本物になるわけ。「バーチャルリアリティ」で組みあげて設計したものを実際にこの世に出した時に、それが「正解」で。心の中だけで幾らやったって、これは非常に恐ろしい結果をもたらします。「バーチャルリアリティ」では本当その中の架空の世界で映像によって、生命体もつくれます、恋愛もできます、家庭もできます。そこにいったん入ったら、死ねないんですよ。その苦しみから。だから、今の若者は手を切って自殺しようとする人がいっぱいいるわけなんですね。

【参加者】

そうですね。

【水源師】

その問題でね。恐ろしい、心というのは、もし間違った方向に進めば、原爆よりも恐ろしいんですよ。

【参加者】

だからこういう、観念的な思考法というのは、ずーっともう小学校のときから大学まで、そういうことばかりやっているんで。

【水源師】

つまり、あのバイオロボティクス（Biorobotics：バイオサイエンスとロボティクスを足した分野）と言ってね、ロボットをつくるよりは簡単で、お金がかからないわけ。（バイオロイドに）全部、学費も全部やってできた一番良いバイオロイドは使いものになるから、それでどんどん生産性が上がると。これはもう血も涙もない方法だからやめなさいと、私は言っていて、必ずすごい災難が起こりますと。

という事は（つまり今の時代は）バイオロボティクスの思考だから、私たちが老人になったら、ああ、老人になったと。そうかと。おしまい。年金なんてもらえませんよ。助けてもくれないですよ。私が若い頃にね、歳を取ってお寺に行くのは、あれは死が怖くてお寺に行って、助けてもらいに行くんだらうと。そういうふうに若者に思われていたわけです。私も、そうかもしれないなど。あれは歳をとってボケてダメになったからとか。そういう風な考えまであった。ところが、何と歳をとればとるほど、やっぱり叡智も沸いてくるし、経験もあるし。世の中にとって、とても大切なもの（存在）であると。だから、敬老ということは本当なわけです。

自然界でもね、その 90 歳になる女王の象が死んだら、全滅してしまう。この象さんは、どこに水があって、どこに行けば食料が食べられると。そして体験によって、気候がどういう風になるから、今年はこっちに移ると。で、それが立派な象だから、殺された挙げ句に 20 頭の象が全部死んでしまう。

だから結局、物がわからずに「バーチャルリアリティー」をどんどこどんどこやっているけれども、これがそのうちにね、チップを埋め込まれるようになる。勉強しなくてもすぐわ

かる、チップでタッタッタッタと回答が。本物じゃないわけ。「虎の巻」が全部入っているチップスをです（笑）。で、その通り動けばいいから。恐ろしいことにアメリカでは今ね、パッタの脳味噌をね、飛行機のコンピュータにつけて、これが最も正確に飛行する、安定の機能を持っている飛行機コンピュータをつくっているようです。このようなチップスを生産だけの為に人間の頭脳に付ける社会が出来るとしたら、とても恐ろしい事です。

間違いなく。で、そういう風なチップで人間がすべてコントロールされる、ということが『地蔵経』に書いておりました。『地蔵経』に書いてあったんですよ、30年前にそのお経を私は読んでます。この『地蔵経』は1000年か2000年前。いつ出たかは知りません。30年前に見たときに、私はショックを受けた。『地蔵経』を読んで。そうしたら私達の世界が、どんどんそっちに近づいてくる。だからその無量阿僧祇劫（むりょうあそうぎこう）の法門、『維摩経』。五次元のことをきれいに書いてあるわけでしょう？今やっと、現代物理学がその世界が存在するかもしれないと、科学が進化しています。

因縁の恐ろしさ

だから心というのは、すごい物なんです。我々はやっぱり、その精神界にお手伝いする身であるからね。できるだけたくさんの皆さんに真理の道を導いていかなきゃいけないし、これをやらなければ。「十二因縁」あるんですよ、強烈なものです、このシステムは。宇宙はそう簡単にできていません。一切、何も無駄にしない。

善いことをすれば、ご褒美をたくさん、貰えます。間違っただけをしたら、必ず、払われます。逃げ道なし。それが梵天の網の目。インドラ。インドラの網の目からは出られない、というそのことです。私達には見えないから、好き勝手に自己の作り上げた世界で、これが本当とやっているけれども。結局、宇宙だってこの宇宙しか見えないでしょう？無量の宇宙があります。この上に天界の宇宙があり、地下の宇宙空間の宇宙もあります。

人間の心で観られますから、そう書いて（あって）、それを体験した後で、読んだ時にその通りだとわかるわけなんです。だからその書いた人は観ているわけです。で、私も観てるわけ。で、他の人も観てるわけ。あの「四無量」心という、あのブラフマ・ビハーラ（brahmavihāra：四梵住）という行をやらせれば。愛の行、歓喜の行、それから平安（ウペッカ）の行をやったときに、パーッと全宇宙が観えます。

やっぱり真言で、ここがとっても大切なところでね、護摩焚きをやる時にちゃんと真言で書いてあるけど、これ見ましたか？と。真言は唱えるけれど、本当、四無量心の行をしていなければできない、という事です。サマーディ（禅定）、サマタ（止）の力がなけりゃ観えないようになってるらしい。これは、弘法大師様もアナパナ（入出息念）を知りました。

で、アナパナの解説を現代語で読んだら、ニミッタ（丹光、禅相）のことを書いてあるんだけど、「丸い月に指差す」と書いてある（笑）。「月輪」（がちりん）のことです。だから、私が言ったのは、禅であろうが南方仏教であろうが、一体だと。おんなじことをやらざるを得ないようになってます。で、解説している人が月輪を体験していないので、ただあの文学的に書いてあるわけです。これはとっても大事な修行の一過程であるけれども、もう本題

からずっと離れてしまっています。だから、(仏教の) 学者ほど、本当に体験するしかないと思いますよ。

それもね、あの 1 年もいらないうですよ。10 日あればいいんです、10 日。10 日あったら私がね、ゴエンカさんのヴェーナヌパサナー (受随観) をキチーッと教えてやれます。そうしたらもうガラリと変わるはず。それをミャンマーでは、ある時代に、すべての政府の高官は、これをやらなきゃいけないんですよ。汚職が激しかった時代にです。カナダではね、裁判官は必ず瞑想しなきゃいけない。頭をちゃんとなおさなきゃいけない。だからその正式に、その名誉とか地位とかは関係なく、本当の事を教えてもらって、本当の事を見れば、世の中いっぺんに良くなります。

わからないで、いくら平和だなんだって言ったって無理だと思います。19 兆円ですか。震災で寄付して戴いた尊いお金をどこに使うか…。まだ眠っている、でも他にバラ巻いている (笑)。それでも今度は税金を上げると。それも全部国民がツケを払わされていると。もしね、こういう「十二因縁」がしっかりわかった行政トップだったら恐ろしくて。いやいや、全財産、投げうって使ってください！ と言うはずですよ。

だから、まずはと、仏教界の学者さんたちですね。本当に心を入れ替えて瞑想会、10 日間やりましょう！ と、そういう運動をしていかなければ。いや一本当に (参加者の学者の) 先生、大変ですよ。本っ当に、大変ですよ。次の世が来るんだから。問答無用だからね。本当に問答無用まったなし。それ (を言っているの) は、私ひとりじゃないですよ。偉大な高僧様が言ってますし、私も読み聞きして、確かめています。

だから、理解しないで、「知らぬが仏」、そうじゃないです。本っ当に全てカルマに記録されています。だから、私が先生に言ったでしょう？ 「5 分でも 10 分でもしてください」と。で、今ここに来られている方々に報告できます事は、私にとって、これはすごいことです。いやお釈迦様の教えが大宇宙の最高の叡智という事を報告出来る事です。やらざるを得ない。知っても知らなくても、一心に、やらざるを得ない。やらなかった場合には、アングリマーラのケースが発生します。アングリマーラは、殺そうと思ってやったわけじゃないでしょう、信じてでしょう？ お釈迦様の教えを受けて涅槃に達した。ところが、そのアングリマーラであっても、教えを、最後の時に、お釈迦様に会わなかったら、これは大変な事になりますよ。本当に、一大事!!! なによりも 一大事です!!!

【参加者】

そうですね…。

体験なき仏教の恐ろしさ

【水源師】

本っ当に恐ろしいこと！だからすべての仏教界の学者は、あの本当に、真剣にやらなきゃいけないと思います。だから、結局、アルボムツレ・スマナサーラさん、ですか？でたらめなことを言っているでしょう？「空即是色は間違いだ」と、それに反論しないでしょう？相

手にする事も無いのでしょうかね。

【参加者】

あの、沢山本を書いている人（笑）。大乘仏教はダメだと言っている人…。

【水源師】

彼は知らないから！『達摩多羅禅経』と言う事も知らないで勝手に言って。（経典に）ニミッタも全部出ている。で、彼は全然体験をしていない、修行をしていない。観たらすぐ理解できるはずですよ。

【参加者】

本を書くのが上手で…。

【水源師】

そうそう、創作が。で、みんな騙されて。騙されたから罪がないのじゃないんですよ！言ったでしょう。「私の先生」を信じてやって、修行できなくなってしまう。この人はひとつも悪いことをしていない、盗みもしなげりや、前世で。ただただ間違っただけの下でやったあげくに、現世、来世、どうなるかわからないという。ザザザ、としか観えないわけ。だから、私が今日本に来て、これにストップをかけているわけです。

この方はとても恐ろしいことをやっているわけですよ。よその国から来て。ということは、日本で勉強していない、ということ。結局、ワシントン DC の話にしても、全然知らないでしょう？ちゃんと Media を通して、その討論会を見ることが出来ますよ。なんにも隠された事じゃないのです。まあ、（参加者の）先生はここに来て（笑）、いるくらいだから大丈夫だけれども。先生の友人方はどうなりますか？罪のない、立派な方々はどうなるのでしょうか。

【参加者】

いや本当に何と言うか。その体験。結局、お経に書いてあったり、その親鸞聖人が書かれたことって言うのは、実際に自分がどう救われていくかということが書かれているのに。だから、自分が体験してみて、そのことがわかると思うんですが。それを、体験を横に置いて、本の中に真理がある、っていう風な研究のしかたが多い。だから、日本の仏教学者のほとんどがそうじゃないかと思います。

【水源師】

私の弟子が言いました。「カンニング」だって。「虎の巻」はやさしいって（笑）。

【参加者】

そう。だから自分で体験すれば、結局、先生もおっしゃっていたんですけれど、自分が体験すれば、弘法大師が書かれたものでも、道元禅師が書かれたものでも、体験したことが書

かれているからすぐわかると。

【水源師】

すぐわかります。それをしないで…。哲学理論思考で理解しようにも、現代の最先端の Logic が薄い氷の上を歩いて要るようなもので、いつ破れ落ちるか解らない 理論上での学術研究ですので、せっかく一生懸けた研究が無駄になると思います。それでは何のために、誰の為に研究したのだらうとなります。

【参加者】

だから、体験がなくて、文字ばかり研究するんで、何が何だかわからなくて。まあ、学者をやるのも非常に、もう苦行をやっている感じだと思うんですね。

【水源師】

それはドウッカ（苦）ですね。ドウッカ、苦行、ドウッカ（笑）。

【参加者】

はい。だからそこに書いてあることがわからないのに、研究して、何かをつかもうとしていると言う、そんな感じがあって。

【水源師】

それは、あの貪瞋癡（とんじんち：欲、怒り、無知）の「癡」（ち）じゃないですか。

【参加者】

ああ…。私がその、ある先生と出会って、でその方はその、東京大学でインド哲学をずーっとやったんだけど、自分が何をやっているかわからないから、いったん勉強をやめて、でお釈迦様の瞑想をしたんだそうです。そしたらわかって来たと言って。だからその方と非常に意見が合うんですね。結局、自分がそれを、なにかお経とか、ご本を書いた人の境地まで行かないと、やっぱりそこに書いてあることがわからないと、私は思っ

【水源師】

そうです。だから結局ね。あの 1 日でもいいし 3 日でもいいし。必ず本当の瞑想をする必要があります。ただ自分でやってもだめです。さっき言ったでしょう？ 心心伝印で。だからそれね、恥ずかしくないですよ。それをやらないでね、死んでいって、はい、私だけは大丈夫！！大丈夫じゃないのです。本っ当に大丈夫じゃない。特に、そういう精神界の指導者がね、本っ当にすごい暗いところに行ってしまうですよ。観ていないからわかってないでしょうね。

だから、まあ私の話を聞いたら逃げるでしょうね。でも私達は、逃げて、逃げ切れないインドラの網の中にいます。勉強しているのでしょう？ わからないで、これがお釈迦様の法

です、と教えたことの仏罰というのはすごいことなんです。だから、そんなものね、結局、1兆円取るか、この教えを取るか。この教えをとる、と言うのが正解。金なんて問題じゃないです。次の人生どうなりますか？ すぐ転生してしまうんだから。わからないから、そんなことを言っているのだと思いますよ。

(死んでから生まれ変わるまでの) その間、49日間の法要。こっちから見たら10年かもしれない、100年かもしれない。本人はね、光以上のスピードだから時空がないんですよ。だから、アインシュタインの理論もある程度合っていると、私は言っています。光以上のスピードになったら、時空は止まってしまう(消えます)。だから一瞬にして、転生してしまいます。量子論のマックス・プランクの理論では、エネルギー状態の時空を動いていますから、この事が理解しやすいと思います。

これを「因縁」と言っています。この「因縁」の組み合わせが、個人のサンカーラ(行、形成作用)。「観自在菩薩行深」の「行深」(ぎょうじん)。これがサンカーラ。これを深く観た時、これが因縁の塊。これが結局、「天体の因縁」「国の因縁」「大地の因縁」、これが全部、五つ組み合わせられてできているから。だから、そのいくらバーチャルリアリティで全宇宙をつくったって、現実と離れているのですから、大変な結果を起こしてしまうでしょう。

現実に生きる大切さ

【参加者】

人間が結局、今の現代の人が現実に触れられなくなっている、観念的に物事を理解して…。

【水源師】

そうそうそう。これからますます、気がおかしくなった人のような…(正確には)気がおかしくなってはいないのですよ。「バーチャルリアリティ」だから、その空間では正しいでしょう、間違いはない。でも、「現実」のここでは全くおかしい状態になってしまう。だから、いかにこの「バーチャルリアリティ」をこの「現実」とつなげていくかと。その天才が、やっぱりビルゲイツとか。その iPod のスティーブさんですか？ そういうことなんでしょう？ 幻を「現実」のものとしてこう…実感させることができるのでしょうかね。

それよりも、仏法はね、もっとすごいということ。来世のことが発生してくるから。あなたの命ね、一億出すからすぐ売って死んでください、って言われても売らないでしょう？ あなたの命、一兆円出すからすぐに売ってください、売りますか？ 一兆円持っていけないもの(笑)。そうでしょう。だから、法はお金と関係ないくらいすごい物であると。だから『法華経』の、家が火宅であるから出て来なさい、何でも与える、というのはこのことなのです。

【参加者】

だからなんかやっぱり、そういう本当のものをこう判断したり、本当だと感じる感覚が、ものすごく萎えてしまっているんでしょうね。

【水源師】

そうです。いやあの、先生にはちょっとキツイかもわかりませんが。全てが、因縁でしょう？先生と私の間に、私の先生（印幻禅師）の繋がりがあるでしょう？会うことも何もわかってないけど、こうして、縁が切れずにずーっと。その（先生は）大先生で、私はもうぼんやり者だから。なるわけがないのに、こういう風に（笑）。なのに、なっているわけですよ。

【参加者】

昨日だったかー昨日だったか、ねえ、メールをいただいて。

【司会者】

メールを、はい。メールを送らせていただいて。

【水源師】

だから結局ね、今あの、宗教界の司会者さんにしろ、先生にしろ、本当に真剣になって仏教を指導する人を集めてね、水源さんという人がこんなこと言っているけどどうでしょうか、恐ろしいことを言っていますよ、少しは私達も勉強しなきゃいけないんじゃないでしょうか、と。

【参加者】

本当に浄土に往けるかどうか確かめたんですか？と言われて、確かめてないよ、と答えたと（笑）。

【水源師】

そうそう。確かめて、初めて教えられるでしょう？

【参加者】

そうですね（笑）。

【水源師】

浄土に往けますと、嘘ばかり書いたら浄土に生まれる因縁がないでしょう？観てもないのに。それを書いた場合には、大変な事が起こると。宇宙的なエネルギー関係なんです。すべてエネルギー関係。循環。

良いことをすれば、愛が発生します。愛のエネルギー。悪い事をすればね、グチャグチャと暗いエネルギー、病魔のエネルギーが発生します。という風に、この五つのスペースで私たちが動いているわけです。なぜかと言ったら、見るエネルギー体のスペースと、それから匂いあるでしょう？嗅ぐ、このスペース。味わう、聞く、それから、触る。これ、まったく別のエネルギー体が、この五つが、この心のね、エネルギー体の空間に入って、あなたが私をこうして見

ているわけだから。だから六処というわけ。「salāyatanam」、これで生命が発生している。

これをね、偉い先生の書いたさ、「十二因縁」を読んでみて下さい。あまりにも難しくて！普通の方々は仏教専門の情報がないので、お手上げだと思います。今、簡単に説明したでしょう？非常に明快でしょう？だから、書いている本人は全然わからないで、一万円、二万円、の本を出版しているわけです。

【参加者】

いやー、そういうことあるな、と思うんですよ。だから、普通の人にわからない言葉を一所懸命使って、あんまり現実的には役に立たないことを…。研究している人はかなり多い…。

【水源師】

それで、教えられた生徒はどうしますか？ 教えられて、博士号を取った生徒はどうしますか？

【参加者】

なんか、役に立たないことをやっている人が多い、と思うけど… (笑)。

【水源師】

恐ろしいでしょう？

【参加者】

恐ろしいです。役に立たないことをやさしく教えられたりすることが一番怖いですね。

【水源師】

あのね「シャイニング」という（ホラー）映画を見たことがありますか？（主人公が）山のホテルを冬の雪の中で一人で小説を書いて居るように、タイプで書き込んでますが、ttttとかcccで打ち込んで、気がおかしくなっている。あれをワタシたちはしていませんか？していると思います…。怖いじゃないですか…。「現場」の人が言っているわけですよ。私たちに何かやっているんじゃないかと（思わせておいて）、よく見たら、何もやっていない（笑）。だから、今の政治がそのように見えます。やっている風に、政治家はワッとやっているでしょう？言われたとおりにやって、でも忙しくて勉強する暇がないから、レポートを聞いてそのままやっているわけだと思います。だから、「現場」とのギャップなんですね。だから結局、私が言うのは、「現場」をみなさんやってください、というだけの話。それ以外、なんにもないです。あとは、いくら難しい文献を100万冊頭に入れてもこれは役に立ちませんと。失礼（笑）。

ところが、「現場」を見て、この本を見たら、いやー良かったと。と言う風に（本は）貢献するんです。だから、その文章がなかったら、私には解らない事が大いにありました。だから、そういう風で、すべてがダメじゃないんですよ。ただ、体験する必要もありますと。

結局、アナパナのことを説明するのに「月を見て指さすなんとか」って書いてある。アナパナ（入出息念）というのは呼吸を鼻から吸って出すと。その時に心の光が息と混じりあって、光が発生して。月のように安定します、とすることなんです。で、その月（禅相、月輪）を観ることによって禅定に入っていきますと。禅定の力によって、過去も未来も観えますと。この過去も未来も観えるがゆえに、因縁がちゃんとわかります。因縁がわかるがゆえに、空（くう）の本質が観えますと。色即是空、空即是色。で、空（くう）の世界には三段階あります。人が空を知ること、空を観ることによって法が観えます。法が観える事によって、空（くう）の本質が観えます。これはね、勉強しても絶対到達できない、理論の中では理解できない時空です。

ただ観て、観（かん）、観自在、観することではしか観えない。まあ、そこまで行かなくても、その入口の門に立ったら、いつかは私みたいなぼんやり者でも山に登るから、と言っているだけのこと。山頂に上ったら誰でも観えるわけなんです。今、先生が非常に、ご立派に告白してくれたけれども。普通は言わないですよ。そういう状態で、そのシャイニングのあの方が大学で教えている先生だったらどういうことになりますか？ まあ、実際にはそういうことはないけど、その科学とか数学とか。音楽がそうなったらどうします？ 人類学とか歴史学とか。恐ろしいでしょう？ 信じてやってもダメだ、ということを報告しているのです、この問題がいつの世にでもあったみたいです。

だから自分で、一つ一つ料理を作って味を確かめると。料理を作って、ああ人が「おいしいな、幸せになった」と言っている。これが実際の功德。何にも難しくない。…もう皆さんシーンとして・・・(笑)。

【水源師】

もう、(2012 年秋の) 合宿ではこんなもんじゃなかったですね。頭がクルクルすることを話しましたね。まあ今回の法話では、ずっと煮詰めて、仏教のことばかり話したけれど(笑)。なぜ、ああ言ったかといったら、あそこまで皆さん修行しているのに、こういう本によって殻に入っているわけです。これが仏教だと。

だから、この私の体験したことからバーッとぶち破って。それでパーンと。ああ、こういうこともあるんだということで、ああ言う手法をとったわけです。

水源禪師法話集 17
(2012年9月30日 京都法話会)

2014年9月22日 発行

編集兼発行 一乗会